

283  
別庫  
16



始





283  
16

第六高等學校一覽

自大正十四年  
至大正十五年







283-16



第六高等學校一覽

- 【一】學年 曆
- 【二】沿革 略
- 【三】關係諸法令
  - 一 正文部省直轄諸學校官制抄
  - 二 正文部省直轄諸學校職員定員令抄
  - 三 高等學校令
- 【四】高等學校規程
- 【五】官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程
- 【六】他ノ學校ノ入學試驗ヲ受クルノ件

目次

發行所寄贈本

大正 14 9 9 寄贈

小ロイ  
 財甫モ守リ斷難モ重シ暴對效報ハ計欲テハハ成ニセ  
 ハキロイ  
 實素謹儉モ旨トシ言計一姓モ謀ニ忌極ハ暴風モ養テ  
 志對モ固クシ學業モ懈ラ具備モ勤全ニスハキロイ  
 小ロイ  
 計遂モ重シ氣彈モ尙シ彈射管蕪ハ舉懷テハハ成ニセ  
 忠孝ハ大義モ固ニシ愛國ハ精神モ發聳スハキロイ

坐封心封

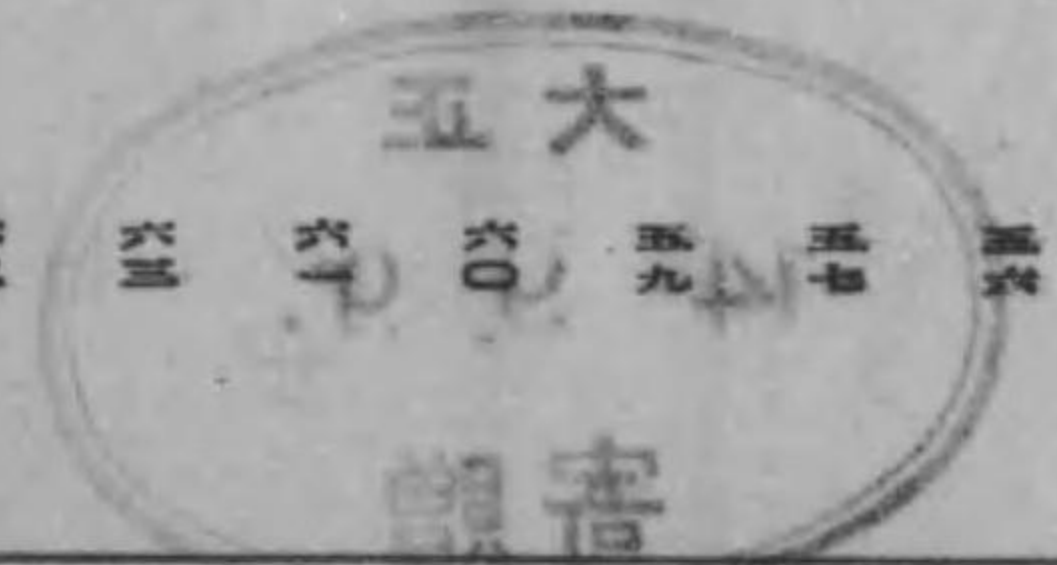


【四】學則、則對、入學、進級、退學、除名

- 第一章 總則
- 第二章 學則
- 第三章 學年學期及休業
- 第四章 入學及在學
- 第五章 進級及卒業
- 第六章 休學
- 第七章 退學及除名
- 第八章 懲戒
- 第九章 授業料
- 第十章 生徒寮規程

書式

發行所 東京



五五 五五 五六 五七 五九 六〇 六一 六三 六三 六三 六五 六八

【五】細則

- 【一】第一章 授業規程
- 【二】第二章 生徒心得
- 【三】第三章 生徒集會規程
- 【四】第四章 學業成績考查細則
- 【五】第五章 通學生徒規程
- 【六】第六章 監督教官規程
- 【七】第七章 級長及副級長規程
- 【八】第八章 評議員規程
- 【九】第九章 教授會規程
- 【十】第十章 服裝規程
- 【十一】第十一章 圖書閱覽室規程

二七三 二七五 二七六 二七七 一八〇 一八一 一八二 一八三 一八四 一八五 一八六 一八七 一八八 一八九



【六】掌務細則	六
第十節 校務分掌規程	九二
第十一節 事務員務服規程	一〇〇
第一 事務員	一〇〇
第二 當直	一〇三
【七】職員姓名錄	一〇七
【八】生徒姓名錄	一二〇
【九】卒業生姓名錄	一三四
【十】卒業生徒數調	一五九
【十一】生徒府縣別人員	二六二
【十二】敷地及建物	二六七
【十三】附學校圖	

### 第六高等學校一覽

大正十四年一月八日  
 第一學期  
 第二學期

自大正十四年  
 至同十五年

第一學期	宣張營業式
大正十四年四月十一日	第二學期授業始
四月十三日	本校記念日
四月十九日	第一學期授業終
七月十四日	夏期休業始
七月十五日	夏期休業終
第二學期	第一學期對業始



九月六日

秋季皇靈祭秋分日

十月十七日(神嘗祭)

十月三十一日(天長節祝日)

十一月二十三日(新嘗祭)

十二月二十四日

十二月二十五日

第二學期授業始

休業

休業

天長節拜賀式

休業

第二學期授業終

冬期休業始

第三學期

大正十五年一月八日

二月十一日(紀元節)

三月十五日

第三學期授業始

紀元節拜賀式

第三學期授業終



三月十六日

春季休業始



### 一、沿革略

明治三十三年

三月二十九日勅令第八十四號ニヨリ本校ヲ設置セラレ同日勅令第八十六號ヲ以テ職員ノ員數ヲ校長一人教授七人助教授四人書記四人ト定メラル 四月十三日第三高等學校教授酒井佐保學校長ニ任ゼラル 四月十九日文部省告示第二百二十一號ヲ以テ本校ノ位置ヲ岡山縣岡山市大字門田字山手屋敷及大字國富字田中ト定メラレ假事務所ヲ文部省内ニ置ク同日文部省令第七號ヲ以テ本校ニ大學豫科ヲ設置セラル 五月三十一日假ニ本校學則ヲ定メ大學豫科各部第一年級生徒ヲ募集ス 六月十九日文部省內假事務所ヲ岡山市大字國富少林寺ニ移ス

七月六日入學試驗臨時委員ヲ第三高等學校職員ニ囑託シ第三高等學校ニ於テ入學試驗ヲ施行ス 八月十五日入學試驗合格者ヲ悉ク各部第一年級ニ編入ス本校カ生徒ヲ收容シタル始メトス同時ニ生徒ノ服制及徽章竝生徒ノ番號ヲ定ム 同日校務分掌規程ヲ定メ教務寮務庶務會計文庫ノ五課ヲ設ケ主幹及各課主任ヲ置ク又事務員服務細則ヲ定ム 九月六日小橋町國清寺ヲ假生徒寮ニ充テ全校生徒ヲ悉ク之ニ收容ス同日事務所ヲ本校内ニ移ス此日曩ニ本校ニ下賜セラレタル兩陛下及皇太子殿下ノ御眞影竝教育ニ關スル勅語ノ贄本ヲ拜戴ス 十一、十二ノ兩日入學生徒ノ引見式ヲ又十三日ニ宣誓式ヲ行フ爾後定例トナス 十五日開校式ヲ舉行ス 十六日地方公衆ニ校舍ノ縱覽ヲ許ス 十八日始メテ各學科ノ授業ニ就ク 十月二日從來ノ假學則ヲ改メ更ニ校則ヲ定ム其ノ他擔任教官竝級長副級長等ノ制ヲ定ム



明治三十四年

一月八日御親署ノ勅語ヲ拜戴ス。三月三十一日勅令第二十五號ニヨリ本校教授十三人助教五人書記五人ト定メラル。九日生徒寮規則ヲ定ム。十日寄宿舎新築落成シ新ニ生徒寮ヲ開キ國清寺ニ設ケタル假生徒寮ヲ廢ス。八月二十五日授業料額一學年貳拾圓ナリシヲ貳拾五圓ト改メ明治三十四年九月以後ノ入學者ニ對シ實施スルコトトス。九月三日博物學、化學、物理學ノ各特別教室ノ新築落成ス。

明治三十五年

一月書庫並圖書閱覽室竣工シ茲ニ工事ニ關スル既定事業完成ス。三月二十七日勅令第九十九號ヲ以テ本校教授定員二十二助教同五人書記同六人ト定メラル。四月二十五日文部省告示第八十二號高等學校大學豫科入學試驗規程發布セラレ從來高等學校ガ各自ニ施行シ

タリシ生徒ノ入學試驗ハ茲ニ文部本省ノ事務ニ移ル。九月十一日市内虎列拉病流行ニヨリ開校ヲ延期シ同月二十一日迄授業ヲ閉止ス。此ノ月二年級以上ノ生徒ニ市内散宿ヲ許シ同時ニ生徒番號ヲ廢ス。

明治三十六年

三月七日生徒寮規程中在寮日數ニ拘ラス當月全額ノ寮費ヲ徵收スルノ規定ヲ改メ十五日以前ニ退寮シ又ハ十六日以後ニ入寮シタル者ニ對シテハ半額トナスコトニ定メタリ。六月十九日勅令第三百三號ヲ以テ本校教授定員二十三人助教定員六人ニ改メラル。六月三十日生徒六十名ヲ卒業セシム之ヲ以テ生徒卒業ノ始メトス。

明治三十七年

十一月三十日文庫規程ヲ改正シ器械標本類ノ出納保管ノ任ヲ文庫課ノ管掌ヨリ除ク。



明治三十八年

二月授業料ヲ一學年金參拾圓ニ改ム同時ニ在學證書ノ樣式等ニツキ規則中改正アリ 九月十一日生徒取締ヲ置キ其ノ掌務規定ヲ定ム

明治三十九年

三月二十九日勅令第四十六號ヲ以テ本校教授定員ヲ二十四人ニ改メラル

明治四十年

六月二十八日勅令第二百四十七號ヲ以テ本校教授定員ヲ二十六人助教授七人ニ改メラル 九月規則ヲ改正シ從來ノ生徒保證人ヲ廢シ試驗制度ヲ改ム又授業ハ主トシテ教科書ヲ用フルコトトス

明治四十一年

三月十二日文部省告示第七十八號ヲ以テ入學試驗ニ關スル事務ヲ再

七高等學校ニ於テ施行スルコトナレ 二十三日生徒控所兼雨天體操場落成シ其ノ引渡ヲ受ク此ノ月勅令第六十九號ヲ以テ本校教授定員ヲ二十七名ニ改メラル 九月寮費一ヶ月金七拾五錢ナリシヲ改メテ金九拾錢トス 十月十一日勅令第六十一號ニ依リ同科ノ同科ノ同科

明治四十二年

一月校務分掌規程ヲ改正シ主幹ヲ廢シ從來ノ分課ノ外更ニ生徒課ヲ増設ス又評議員規定ヲ定メ同時ニ評議員ヲ任命ス 四月勅令第八十八號ヲ以テ教授ノ定員ヲ二十八人ニ改メラル 六月十四日文部省令第十五號ヲ以テ高等學校大學豫科學科課程中地質及礦物ヲ地質學礦物學ト改メ林學科志望者ニ數學ヲ削リテ英語ヲ加ヘ又理農藥學志望者ニ動物及植物ノ實驗ヲ加ヘラル 八月十九日文部省令第十九號ヲ以テ高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程中第一部ノ志望類ニ改正



ヲ加ヘラルル同日文部省令第十二號ヲ以テ大學豫科學科課程中第一  
部丙類政治科志望者ノ外國語授業時數ヲ定メラルル九月寮費金壹圓  
拾錢ニ改ム科學科志望者ニ豫學ニ關スル其額ニ依リテ又豫學費志望  
明治四十三年ノ高等學科大學豫科學科課程中此費及豫學費ニ此費學費  
三月勅令第六十七號文部省直轄諸學校職員定員令ヲ改正ニテ本校  
助教授入定員ヲ三名ニ改メラルル四月二十日 文部省令第九號ヲ以  
テ農科大學志望者ニ數學ヲ除カルル五月 文部省令第十號ヲ以テ入  
學者選拔試驗無試驗檢定規程定メラルル 十一月一日 文部省令第二十  
六號ヲ以テ大學豫科學科課程中倫理ヲ修身ニ改メ同時ニ同科ノ授業  
時數ヲ增加セラルル 十六日 御沙汰ニヨリ恒久王殿下台臨アラセラル  
ル 二十五日 學校長酒井佐保第三高等學校長ニ任ゼラルル 高知縣立第  
一中學校長金子銓太郎學校長ニ任ゼラルル 二十三日 高知縣立南天

明治四十四年

一月二十三日 各部第一年級及第二年級ノ修身科ノ授業ヲ開始ス 四月  
月二十六日 文部省令第二十一號ヲ以テ高等學校大學豫科入學者選拔  
試驗無試驗檢定規程中推薦學校ノ種類ヲ加ヘラルル 七月三十日 勅  
令第二百十七號ヲ以テ高等中學校令發布セラレ高等學校令廢止セラ  
ル 但本令ハ明治四十六年四月一日ニシテ施行セラルルモノニシテ高等  
學校大學豫科ハ其ノ際現ニ在學スル者ノ爲ニ明治四十八年八月三十  
一日迄存置セラルル 同日 文部省令第二十五號ヲ以テ高等中學校規程  
發布セララルル 九月一日 授業料額ヲ一學年金參拾五圓ニ改ム 四日 校  
長室教官室事務室及食堂ノ位置ヲ變更ス

明治四十五年

七月一日 集會所ノ新築落成ニ引渡ヲ受ク



七月三十日 明治天皇崩御即日 今上天皇踐祚元號ヲ大正ト改メラ

大正二年 圖書特別教室一棟増築竣工シ其ノ引渡ヲ受ク四三月

十三日勅令第十八號ヲ以テ高等中學校令ノ實施ヲ延期セラルル七月

十四日規則中ヲ改正シ入學料金壹圓ヲ金參圓ニ増額ス八月九日規

則中ヲ改正シ天長節祝日ヲ休業日中ニ追加ス

大正三年 四月三十日文部省令第十八號ヲ以テ高等學校大學豫科入學者選抜試

驗規程中修學部類ニ改正ヲ加ヘラレ理科及藥學科ヲ二部乙類トシ

農科ヲ二部丙類トナス六月十九日勅令第二百二十四號ヲ以テ文部省

直轄諸學校ノ名譽教授ニ關スル件ヲ定メラル 九月八日生徒取締規

程ヲ廢ス

大正四年 六月二日校則中學業成績考查細則ニ追加シ三年級生徒ニ限リ第三學

期試業ニ缺席シタル者モ認定ノ上卒業セシムルコトアルベシトノ規

定ヲ設ク十月二十一日 天皇陛下ノ御眞影ヲ拜戴ス十二月七日

勅令第二百三十六號ヲ以テ本校教授定員ヲ三十名ト改正セララル

大正五年 十月二十一日 皇后陛下 皇太子殿下ノ御眞影ヲ拜戴ス

大正六年 四月二十七日 文部省令第四號ヲ以テ高等學校大學豫科入學者選抜

試驗規程ヲ改正シ各高等學校集合シ試驗制トナス三月二十九日勅

令第六十一號ヲ以テ教授定員ヲ三十二人ト定メラル十一月二十

九日校則第二章第一款ノ授業規程中生徒ノ缺席届出方ヲ改正シ尙擔



任教官ヲ廢シ新ニ監督教官規程並級長副級長規程ヲ定ム茲五ヶ箇商  
 大正七年十一月二十一日  
 七月十九日勅令第二百八十六號ヲ以テ教授定員ヲ三十四人ト定メラ  
 ル 十二月五日勅令第三百八十九號ヲ以テ高等學校令發布セラレ明  
 治二十七年勅令第七十五號高等學校令及明治四十四年勅令第二百十  
 七號高等中學校令廢止セララル但現在ノ高等學校大學豫科ハ大正十年  
 八月三十一日マテ存置セララル  
 大正八年  
 一月八日 學校長金子銓太郎第三高等學校長ニ任セラレ文部省督學  
 官丸山環學校長ニ任セララル 三月二十九日文部省令第八號ヲ以テ高  
 等學校規程設定セララル同規程ニヨリ本令施行ノ際現ニ高等學校大學  
 豫科ニ在學スル生徒ニシテ大正十年八月三十一日マテニ卒業セサル  
 モノハ之ヲ高等學校高等科ノ相當學年ニ編入スト定メラレ又高等中

學校規程明治四十一年文部省令第九號高等學校大學豫科入學者無試  
 驗檢定規程及高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程ヲ廢止セララル同  
 日 文部省令第九號ヲ以テ高等學校高等科入學資格試驗規程又文部省  
 令第十號ヲ以テ高等學校教員規程ヲ定メララル 四月十九日文部省令  
 第十四號ヲ以テ官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程ヲ定メララル  
 二十三日柔道道場落成シ其引渡ヲ受ク  
 九月十六日日本校々規ヲ廢シ更ニ學則ヲ定ム  
 大正九年  
 八月授業料ヲ一學年金四拾圓ト改ム 十二月二十七日勅令第三百三十九號  
 ヲ以テ教授定員ヲ三十六人ト定メララル  
 大正十年  
 四月學則中ヲ改正シ學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終  
 ルト爲シ又寮費ヲ一ヶ月金貳圓ト改ム 五月二十五日勅令第二百三



十三號ヲ以テ助教教授ノ定員ヲ三人ト定メラル  
 高等學校高等科入學者選抜試験規程中ヲ改正シ理科丙類ヲ増設セラ  
 大正十一年  
 四月授業料ヲ一學年金五拾圓ト改メ又寮費月割ノ制ヲ改メテ年額ト  
 ナス 六月十九日細則中授業規程ヲ改正ス 十一月劔道道場及弓道  
 道場竣工シ其引渡ヲ受ク 十二月文部省所管ノ學校二箇以上ニ入學  
 フ志願シタル者扱方ノ件廢止セララル

大正十三年

六月九日松江高等學校長小松倍一本校校長ニ任セラレ丸山環本校々  
 長ヲ免セラル  
 大正十四年  
 三月二十三日授業料ニ關スル規定ヲ改正シ四月一日ヨリ授業料一學  
 年金六拾五圓トス

### 三、關係諸法令

#### 一、文部省直轄諸學校官制(抄)

明治二十六年八月勅令第八十六號ヲ以テ制定セラレ爾後數次改正シ

第一條 文部省直轄學校ハ左ノ如シ

(中略)

#### 第六高等學校

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 合教授 生徒監 助教授 書記

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス 文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ

所屬職員ヲ監督ス

第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トシ 助教授ハ判任トス 生徒ノ教育ヲ掌



第九條 生徒監ハ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

生徒監ハ校長ノ指揮ヲ承ケ專ラ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第十七條 專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サ

ル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣

ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムル

コトヲ得

第十九條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設ク

ルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

二、文部省直轄諸學校職員定員令抄(明治三十五年勅令第九十九號ヲ以テ制定セラレ爾後數次改正)

第六高等學校	校長	一	教授	生徒監	助教授	書記
	長教		授生	徒監	助教	書記
	長教	三	補	職		
		三				
						七

三、高等學校令大正七年十二月五日勅令第三百八十九號

第一條 高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ以テ目的トシ

特ニ國民道德ノ充實ニカムヘキモノトス

第二條 高等學校ハ官立公立又ハ私立トス

第三條 高等學校ヲ設立スルコトヲ得ル公共團體ハ北海道及府縣ト

ス

第四條 私立高等學校ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ

因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其ノ事業トシテ之ヲ設

立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 前條ノ財團法人ハ高等學校ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル

資金及少クトモ高等學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本

財産ヲ有スルコトヲ要ス但シ其ノ基本財産ノ額ハ五拾萬圓ヲ下ル



コトヲ得ス  
 基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ  
 第六條 公立及私立ノ高等學校ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受ク  
 第七條 高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス  
 高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得  
 第八條 高等學校高等科ヲ分チテ文科及理科トス  
 第九條 高等學校ニハ高等科ヲ卒リタル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得其ノ修業年限ハ一年トス  
 專攻科ヲ卒リタル者ハ得業士ト稱スルコトヲ得  
 專攻科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 高等學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得但シ第七條第二項ノ高等學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス  
 高等學校豫科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム  
 第十一條 高等學校尋常科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科ヲ修了シタル者尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認めラレタル者トス  
 第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ修了シタル者中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認めラレタル者トス  
 第十三條 高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以内尋常科三百二十人以内トシ第七條第二項ノ高等學校ニ在リテハ專攻科ヲ除キ六百人以上トス



第十四條 高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制ス  
 ヘシ一學級ノ生徒定數ハ四十人以内トス

第十五條 高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種  
 類ニ從ヒ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第十六條 高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免  
 許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免  
 許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 高等學校ノ設備編制學科目及其ノ程度教科書并生徒ノ入  
 學退學及懲戒授業料入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十八條 公立及私立ノ高等學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第十九條 文部大臣ハ公立及私立ノ高等學校ニ對シ報告ヲ徵シ檢閱

ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 本令ニ依ラサル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除  
 クノ外高等學校ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ高等學校タルコトヲ示スヘ  
 キ文字ヲ用フルコトヲ得ス

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十七年勅令第七十五號高等學校令及高等中學校令ハ之ヲ廢止  
 ス

舊令ニ依ル高等學校ハ之ヲ本令ニ依ル高等學校トス

前項ノ高等學校ニハ當分ノ内第十三條ノ規定ヲ適用セス

高等學校大學豫科ハ大正十年八月三十一日マテ之ヲ存置ス



四、高等學校規程 (大正八年三月二十九日 文部省令第八號)

第一章 學科課程及教科書

第一節 尋常科

第一條 尋常科ノ學科目ハ修身國語及漢文外國語歷史地理數學博物物理及化學圖書唱歌體操トス

本外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二條 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	一	二	一	一
國語及漢文	八	八	六	六
外國語	六	七	七	七

學科	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
歷史	三	三	三	三
地理	三	三	三	三
數學	四	四	五	四
博物	二	二	二	二
物理及化學	一	一	二	四
圖書	一	一	一	一
唱歌	一	一	一	一
體操	五	五	五	五
計	三三	三三	三三	三三

體操ハ前表ノ教授時數ヲ適宜増加シテ之ヲ課スルコトヲ得

第三條 中學校ノ學科目ノ程度ニ關スル中學校令施行規則ノ規程ハ尋常科ニ關シ之ヲ準用ス



第二節 高等科

第四條 高等科文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、哲學概說、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス  
高等科理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理化學、植物及動物、礦物及地質、心理法制及經濟、圖書體操トス  
外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二外國語ハ隨意科目トス

第五條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス  
修身ハ道德ノ要領ヲ授ク國家、社會、家族ニ對スル責務、立人格、修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ特ニ我國民道德ヲ會得シ其ノ實行ニ努メシムヘシ

第六條 國語及漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ智德ヲ啓發シ文學上ノ趣味ヲ養フヲ以テ要旨トス  
國語及漢文ハ文科ニ在リテハ近世、近古及中古ノ國文ヲ授ク進ミテ上古文ノ一般ニ及ホシ又普通ノ漢文ヲ講讀セシメ國語文法及國文學史ノ大要ヲ授ク作文ニ習熟セシムヘシ  
理科ニアリテハ近世及近古ノ國文並普通ノ漢文ヲ授ク作文ニ習熟セシムヘシ

第七條 外國語ハ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ニ依リテ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ兼テ智德ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス  
外國語ハ發音、綴字讀方、譯解、話方、作文、書取及文法ヲ授クヘシ  
第八條 歷史ハ重要ナル古今ノ事蹟ヲ知ラシメ邦國ノ盛衰文化ノ發達ヲ理會セシメ特ニ我國運發展ノ由來國體ノ特異ナル所以ヲ明ニ



シ國民性格ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス、并ニ其ノ源流ヲ明ニシ、  
 歴史ハ日本歴史、東洋歴史及西洋歴史ヲ授クヘシ、  
 第九條 地理ハ我國及重大ナル世界各國ノ現状ヲ知ラシムルヲ以テ要  
 旨トス、

第十條 哲學概説ハ思想界ニ關スル知識ヲ與ヘ哲學ノ概念ヲ會得セ  
 シムルヲ以テ要旨トス、

第十一條 心理及論理ハ心意ニ關スル知識ヲ得シメ思考ヲ鍛鍊セシ  
 ムルヲ以テ要旨トス、  
 心理及論理ハ各種ノ精神作用、思考ノ原則及其ノ方法ヲ概要ヲ授ク

第十二條 數學ハ數理ヲ會得セシメ計算應用ニ熟セシメ思考ヲ精確  
 ナラシムルヲ以テ要旨トス、

第十三條 自然科學ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ  
 法則ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス、

第十四條 物理、化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理  
 會セシメ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察工夫ノ力ヲ養フヲ以テ要旨トス、  
 物理ハ力學、物性、音響、熱光、磁氣、電氣ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘ



化學ハ無機化學及有機化學ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十五條 植物及動物、礦物及地質ハ天然物ニ關スル知識ヲ與ヘ之カ  
應用ヲ示シ兼テ觀察ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

植物及動物ハ生物ノ形態、生理、分類、進化ニ關スル知識ヲ授ケ又主要  
ナル實驗ヲ課スヘシ

礦物及地質ハ礦物ノ產狀、性質、用途、地球ノ構成及其ノ變遷ニ關スル  
知識ヲ授ケ又便宜主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十六條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民生活ニ  
必要ナル知識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常ノ生活ニ適切ナル法制上及經  
濟財政上ノ事項ヲ授クヘシ

第十七條 圖書ハ形體ヲ正確且自由ニ書クノ能力ヲ得シメ意匠ヲ練

リ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

圖書ハ自在畫、平面幾何畫、立體幾何畫ヲ授クヘシ

第十八條 體操ハ身體ヲ健全ニシ動作ヲ敏活ナラシメ剛健ノ精神ト  
規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣トヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ教練及體操ヲ授クヘシ又劍道及柔道ヲ加フルコトヲ得

第十九條 文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ  
依ルヘシ

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身		一	一	一
國語及漢文		六	五	五
第一外國語		九	八	八
第二外國語		(四)	(四)	(四)



學科目	第一學年	第二學年	第三學年
歷史	三	五	四
地理	二	八	八
哲學概說	二	三	三
心理及論理	二	三	二
法制及經濟	二	二	二
數學	三	三	三
自然科學	二	三	三
體育	三	三	三
計	二九 (三三)	二九 (三三)	八二 (三三)

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語ト  
ス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シ

ム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一一	一〇	一〇
第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	三一 (三四)	三一 (三四)	三〇 (三三)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第二十條 理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ



修身	第一學年 一	第二學年 一	第三學年 一
國語及漢文	四	二	
第一外國語	八	六	六
第二外國語	(四)	(四)	(四)
數學	四	四	(四)
物理		三	三
化學		三	三
植物及動物	二	二	實講 實講 實講 驗義 驗義 驗義 二二 二三 二三 四 五 五
礦物及地質	二		
心理		二	
法制及經濟	二		
圖書	二	二	(三)

第三學年ノ數學(二)及圖書(二)ト第三學年ノ植物及動物講義ニ實驗(二)トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシムルモノトス  
 第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

體操	三	三	三
計	(三) 二元	(三) 二元	(三) 二元
學科目	學年	第一學年	第二學年
第一外國語	10	九	九
第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	(三) 10	(三) 11	(三) 11



第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科ニ配當スルコトヲ得

第三節 專攻科

第二十一條 專攻科ノ學科目ハ左ノ學科目中ヨリ便宜選擇シテ之ヲ定ムヘシ

國語、漢文、支那時文、外國語、史學、哲學、倫理學、社會學、法律學、政治學、經濟學、數學、物理學、化學、植物學、動物學、礦物學、地質學、天文學、氣象學、應用化學、機械工學、實業ニ關スル科目等

第四節 二教授上ノ注意

第二十二條 高等學校ニ於テハ高等學校令第一條ノ旨趣ニ依リ生徒ヲ教育シ殊ニ國民道德ノ充實ニ關聯セル事項ハ何レノ學科目ニ於

テモ常ニ留意シテ教授セシムコトヲ要ス  
前各學科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトヲオク互ニ相聯絡シテ補益セシムコトヲ要ス

第五節 教科書

第二十三條 高等學校ノ教科會ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ但シ文部大臣ノ檢定ヲ經タル中學校教科書ヲ尋常科ノ教科書トシテ使用スル場合ニ於テハ認可ヲ要セス

第二十四條 學年ニ學年教授日數及式日  
第二十五條 教授日數ハ尋常科ニ在リテハ每學年二百五十日以上高



高等科ニ在リテハ毎學年二百日以上專攻科ニ在リテハ百九十日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第二十六條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 紀元節天長節祝日及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 要編制

第二十八條 尋常科ニ於テ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得ル場合ニ關シテハ中學校ニ關スル規定ヲ準用ス

高等科ニ於テハ國語及漢文外國語數學ヲ教授スル場合ヲ除ク外文部大臣ノ認可ヲ受ケ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第二十九條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ教員數並專任教員及兼任教員ノ割合ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

第三十條 公立又ハ私立ノ高等學校高等科ニ於テ劍道又ハ柔道ノ教授ヲ擔任スル教員ハ前條ノ定數外トス

第三十一條 高等學校ニ於テハ圖書對照器具對本對照器イテ

第三十二條 學校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衛生上害ヲキ所タルハ之ヲ定ム







五 位置及校地  
 六 校舍ノ圖面及建設ノ設計  
 七 開校ノ期日  
 八 經費及維持ノ方法

前項第五號ニ關シテハ校地ノ地質及面積並附近ノ情況ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ定性分析表ヲ添付スヘシ

第一項各號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ廢止ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

第三十八條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内

第三十九條 大當該高等學校ノ豫科ヲ修了シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チ之ヲ尋常科ニ入學セシムヘシ

第四十條 他ノ高等學校又ハ中學校ノ豫科ヲ修了シタル者及高等學校ニ於テ國語、算術、日本歴史、地理、理科ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ行フ試験ニ合格シタル者ハ尋常科ノ入學ニ關シ尋常小學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

當該高等學校ノ豫科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數尋常科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ尋常小學校卒業ノ程度ニ依ル試験ニ依リテ入學者ヲ選抜スヘシ

第四十一條 尋常科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第二學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上



入學力ヲ有スル者タルヘシ學年ノ修業ノ進歩ニ依リテハ其ノ他ノ志願者  
 前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試  
 驗ニ依リテ之ヲ檢定スヘシ  
 第四十二條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者ハ其ノ他ノ志願者  
 先テ之ヲ高等科ニ入學セシムヘシ  
 第四十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等科ノ入學ニ關シ中學  
 校第四學年ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム  
 一 他ノ高等學校尋常科ヲ修了シタル者  
 二 高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者  
 三 專門學校入學者檢定規定ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者  
 四 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者  
 五 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト

同等以上ノ學力アリト指定シタル者  
 前項ノ資格試驗ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム  
 第四十四條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者  
 多數高等科各科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ中學校第  
 四學年修了ノ程度ニ依ル試驗ニ依リテ入學者ヲ選拔スヘシ但シ無  
 試驗檢定ヲ行ヒテ入學者ヲ定ムルコトヲ得  
 第四十五條 高等學校ニ於テハ入學志願者ニ對シテ體格檢査ヲ行ヒ  
 之ニ合格シタル者ニ限リ入學セシムヘシ但シ當該學校ニ於テ豫科  
 ヲリ尋常科ニ進入シ又ハ尋常科ヨリ高等科ニ進入スル者ニ關シテ  
 ハ此ノ限ニ在ラス  
 第四十六條 高等科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ  
 入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上



ノ學力ヲ有スル者タルヘシ  
前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試  
驗ニ依リ之ヲ檢定スヘシ

第四十七條 高等學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタル時ヨリ一  
年以内ニ於テ高等學校ニ入學ヲ志願シタル時ハ同一學年以下ノ學  
年ニ限リ入學ヲ許可スルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テ其ノ退學シタル高等學校ニ再入學ヲ志願シタル  
者ニ限リ試験ニ依ラサルコトヲ得

第四十八條 高等學校生徒ニシテ他人ノ高等學校ニ轉學ヲ志望スル者  
アルトキハ關係學校長ノ協議ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得  
第四十九條 高等學校尋常科ト中學校トノ相當學年相互ノ間ニ於テ  
ハ前條ノ規程ニ準シ轉學ヲ許可スルコトヲ得

第五十條 高等學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ  
認ムルニハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ  
正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ成績ノミ  
ヲ考查シテ之ヲ定ムルコトヲ得

第五十一條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ム  
ルコトヲ得

第五十二條 學校長ハ高等學校高等科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書  
ヲ專攻科ヲ卒リタル者ニハ得業證書ヲ尋常科ヲ修了シタル者ニハ  
修了證書ヲ授與スヘシ  
第五十三條 學校長ハ正當ノ事由アリト認メタルキハ生徒ノ休學  
ヲ許可スヘシ



第五十四條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 引續キ一年以上缺席シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

五 出席常ナラサル者

第五十五條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十六條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第七章 豫科

第五十七條 高等學校ノ豫科ニ關シテハ中學校ノ豫科ニ關スル中學

學校令施行規則ヲ規定ヲ準用ス

第八章 雜則

第五十八條 高等學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ加シ

一 學年、學期及休業日ニ關スル事項

二 學科課程教授時數ニ關スル事項

三 中課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項

四 學生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項

五 三 授業料、入學料等ニ關スル事項

第五十九條 私立ノ高等學校ニ關シテ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地  
本方長官ヲ經由スヘシ



附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ高等學校大學豫科ニ在學スル生徒ニシテ大正十年八月三十一日マテニ卒業セサルヘキモノハ之ヲ高等學校高等科ノ相當學年ニ編入ス

高等中學校規程明治四十一年文部省令第九號高等學校大學豫科入學者無試驗檢定規程及高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程ハ之ヲ廢止ス

第五十五 官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程(大正八年四月十九日 文部省令一四號)

第一條 入學志願者ノ數當該高等學校生徒募集人員ニ超過シタルトキハ選拔試驗ヲ行フ

第二條 各高等學校ニ入學セシムヘキ生徒ノ概數選拔試驗ニ關スル

細目及出願ノ手續其ノ都度文部大臣之ヲ告示ス

第三條 前選拔試驗ノ學科目ハ中學校第四學年マテノ必修學科目中ニ就キ之ヲ選定ス但シ外國語ハ英語獨語及佛語ノ中本人ヲシテ其一ヲ選ハシム

第四條 前項ノ試驗ハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依ル

第五條 入學志願者ハ其ノ入學後修業セントスル科及類ヲ指定ス

指定スヘキ科及類ハ左ノ加シ

文科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ

文科 乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ

文科 丙類 佛語ヲ第一外國語トスルモノ

理科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ



理科 乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ

理科 丙類 佛語ヲ第一外國語トスルモノ

選拔試験ノ外國語ニ英語ヲ選フ者ハ志望ノ類二箇以上同一科内ノ類ニ限ルヲ併セ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ志望ノ類ノ順位ヲ定ムヘシ獨語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ文科乙類又ハ理科乙類ニ限リ佛語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ文科丙類又ハ理科丙類ニ限ル

第六條 入學ヲ許可スヘキ者ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ定ム

- 一、各高等學校ニ於テ各科毎ニ其ノ科ニ入學セシムヘキ人員ノ總數ト同數ノ人員ヲ試験ノ成績順ニ依リ選出ス
- 二、前號ノ場合ニ於テ試験成績相同シキトキハ抽籤ニ依リ其中ニ
- 三、目前二號ニ依リ選出セル人員ニ就キ試験ノ成績順ニ依リ本人ノ

指定スル第一ノ志望類ニ配當ス

四、前號ニ依リ配當ノ結果本人ノ指定スル第一ノ志望類既ニ滿員

トナリタル場合ニ於テハ更ニ成績順ニ依リ本人ノ指定スル第

二以下ノ志望類ニ配當ス

五、本人ノ指定スル類悉ク滿員トナリタルトキハ入學スルコトヲ得サルモノトス

前項ニ依リ配當ノ結果又ハ事故ノ爲入學者ニ缺員ヲ生シタルトキハ入學スルコトヲ得サリシ者ニ就キ更ニ前項ノ方法ニ依リ之ヲ補填ス

第六、文部省直轄諸學校生徒他ノ文部省直轄諸學校ノ入學試験  
文部省直轄諸學校ヲ受クルノ件 (明治三十八年 文部省令第十八號)



文部省直轄諸學校ノ生徒ニシテ豫メ學校長ノ許可ヲ受ケス他ノ文部  
省直轄諸學校ノ入學試験ヲ受ケタルトキハ其ノ入學試験ハ無効トス

一、本規程ハ、前條ノ規定ニ依リテ、  
二、本規程ハ、前條ノ規定ニ依リテ、  
三、本規程ハ、前條ノ規定ニ依リテ、  
四、本規程ハ、前條ノ規定ニ依リテ、  
五、本規程ハ、前條ノ規定ニ依リテ、

第四章 學

第一章 總則

本校ハ大正七年勅令第三百八十九號ニ基キ同八年文部省令第八號ニ  
ヨリ高等學校高等科ヲ置ク

第二章 學科

第一條 本校ノ學科ハ大正八年文部省令第八號所定ノ文科及理科ト  
ス

第二條 前條各科ノ學科目中外國語ハ英語及獨語トス



第三章 學年學期及休業

第一條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第二條 學年ヲ分チテ三學期トス

第一學期 四月十日ヨリ八月三十一日マテ

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日マテ

第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日マテ

第三條 休業日左ノ如シ

本對日曜日

春季休業 三月十六日ヨリ四月十二日マテ

本校紀念日 四月十九日

夏季休業 七月十五日ヨリ九月五日マテ

秋季皇靈祭 秋分日

神嘗祭 十月十七日

天長節祝日 十月三十一日

新嘗祭 十一月二十三日

六多季休業 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日マテ

新紀元節 二月十一日

第四章 入學及在學

第一條 入學ノ期ハ每學年ノ初トス

第二條 本校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ規定ノ入學資格ヲ有シ且ツ

體格検査ニ合格シタル者タルヘシ

第三條 前條ノ入學志願者數募集人員ニ超過スルトキハ選抜試験ヲ

行フ



第四條 選拔試験ハ大正八年四月十九日文部省令第十四號ニヨリテ  
 之ヲ行フ  
 選拔試験ヲ受クル者ハ入學檢定料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ既納ノ  
 入學檢定料ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス入學費ニ充テ且  
 第五條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ指定ノ期日内ニ入學料金參圓ヲ納  
 メ履歷書及父兄若クハ父兄ニ代リテ其ノ責ニ任スヘキ者ノ連署セ  
 ル在學證書(書式第一號)ヲ差出スヘシ  
 前項ノ手續ヲ了セサルトキハ其ノ入學ノ許可ヲ取消ス  
 第六條 入學シタル者ハ規定ノ宣誓ヲナシ宣誓名簿ニ記名スヘシ  
 第七條 退學セシ者又ハ除名セラレタル者一ケ年以内ニ復校ヲ願出  
 ツル場合ニハ詮議ノ上許可スルコトアルヘシ  
 第八條 修學部類ヲ變更センカ爲メ在學ノ儘更ニ高等學校ノ入學試

験ヲ受ケントスルトキハ豫メ願出ツヘシ  
 他ノ直轄學校ノ入學試験ヲ受ケントスル者ハ之ニ準ス

第五章 進級及卒業  
 第一條 各學年ノ末ニ於テ各生徒ノ行狀勤惰學業成績等ヲ考查シ合

格ノ者ハ進級若クハ卒業セシメ不合格ノ者ハ原級ニ止ム

第二條 學業成績ハ日常ノ課業臨時試業並學期試業ノ成績ヲ參酌シ  
 テ之ヲ定ム

一、臨時試業ハ課業進度ニ應シ教官ノ見込ニヨリ之ヲ施行ス  
 二、學期試業ハ成績考查上特ニ必要ト認ムル學科ニ限リ各學期ノ  
 末ニ於テ之ヲ施行ス

第三條 學業成績ノ考查ハ別ニ細則ヲ以テ之ヲ定ム



第四條 前條ニ依リ原級ニ止メタル者ニハ次學年ノ初ヨリ當該學級ノ全學科ヲ再修セシム

第五條 卒業成績ハ三學年間ノ學業成績及行狀勤惰等ヲ考查シテ之ヲ定ム

第六條 所定ノ課程ヲ履修シ卒業セルモノニハ第二號書式ノ卒業證書ヲ授與ス

第六章 休學

第一條 疾病又ハ止ムヲ得サル事故ニヨリ三ヶ月以上修學スルコト能ハサル見込ノ者ハ願ニヨリ其ノ學年間休學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 休學セント欲スル者ハ疾病ナラハ本校指定ノ醫師又ハ公私

立病院ハ診斷書ヲ添ヘ父兄若クハ父兄ノ責ニ任スヘキ者ノ連署ヲ以テ願出フヘシ

第三條 休學ノ許可ヲ得タル者ハ次學年ノ初ヨリ其原級ニ入り修學セシム

兵役ニ服スル爲メ休學ノ許可ヲ得タルモノハ除隊後直ニ原級ニ復スルモノトス

第四條 休學ノ事由止ミタルトキハ許可ヲ得テ課業ニ就クコトヲ得

第五條 休學ハ同一學級ニアル間ハ一回ニ限ル但兵役ニ服スル爲メ休學セル者ハ此限リニアラス

第七章 退學及除名

第一條 生徒疾病其ノ他事故ニ依リ退學セント欲スルトモ其ノ事



由ヲ詳記シ父兄若クハ父兄ノ責ニ任スヘキ者ノ連署ヲ以テ願出ツ  
ヘシ

第二條 左ノ各號ノ一ニ當ル者ハ除名ス

一、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナキ者

二、引續キ一ヶ年以上缺席セル者

三、正當ノ事由ナクシテ引續キ一ヶ月以上缺席セル者

四、出席常ナラサル者

五、引續キ二回同級ニ止マル者

但兵役ニ服スル爲メ同級ニ止マル回数ヲ除ク

六、授業料寮費ノ怠納十四日ニ及ブ者

第三條 除名ニ關シテハ前條ニ指定シタル場合ノ外臨機ノ處分ヲ爲  
スコトアルヘシ

第八章 懲戒

第一條 品行不良或ハ校規風儀ヲ紊亂シ其ノ他生徒ノ本分ニ背戻セ  
ル者ハ單ニ形跡ニ拘ラス主トシテ德義ニ基キ之ヲ懲戒ニ處ス其ノ

第二條 懲戒ハ之ヲ分チテ戒飭停學放校ノ三トス

第九章 授業料

第一條 授業料ハ左表ニ依リ各學期ニ分納セシム

授業料年額	四拾圓	五拾圓	六拾五圓
同第一學期分	拾五圓	貳拾圓	貳拾五圓
同第二學期分	拾五圓	拾五圓	貳拾圓
同第三學期分	拾圓	拾五圓	貳拾圓

大正十學年度迄ノ入學者  
大正十三學年度迄ノ入學者  
大正十四學年度迄ノ入學者



各學期分納額ノ納期日ハ左ノ通りトス	正	圓	正	圓	正	圓
第一學期分	四月	正	自十五日	至二十一日	正	圓
第二學期分	九月	正	自十五日	至二十一日	正	圓
第三學期分	一月	正	自十五日	至二十一日	正	圓

前項納期ノ初日以後ニ入學ヲ許可セラレタル者ニハ入學ノ許可ヲ得タル日ヨリ七日以内ニ當該學期ノ授業料ヲ納入セシム

學期開始後ニ於テ退學スル者ノ授業料ハ其ノ學期分ヲ徵收ス但シ除名又ハ放校ニ處シタル者ハ此限りニアラス

第二條 授業料ハ缺席停學等ノ爲メ免除セス但兵役ニ服スル爲メ休學スル者ニハ次期以降ノ分納額ヲ免除シ其ノ他ノ休學者ニハ其ノ半額ヲ免除ス

第三條 休學退學除名放校等ノ場合ニ於テモ既納ノ授業料ハ還付セ

第四條 休學者休學ノ事故止ミテ課業ニ就キタルトキハ當期分ノ授業料全額ヲ徵收ス

第五條 定期日內ニ授業料ヲ納メサル者ハ未納中登校ヲ差止ム

第十章 生徒寮規程

第一條 生徒寮ハ寮生ヲシテ本校教育ノ趣旨ニ基キ協同生活ノ訓練ヲ受ケシムル處トス

第二條 新ニ入學セル生徒ハ總テ生徒寮ニ入ルヘキモノトス但シ本

第三條 生徒ハ入寮ノ際在寮誓書ヲ差出スヘシ(第三號書式)

第四條 寮生ハ猥ニ退寮ヲ許サス



第五條 寮生ハ生徒監ノ指導ヲ受クヘシ

第六條 寮生ハ寮生規約ヲ定メ學校長ノ許可ヲ經テ之ヲ實行スヘシ

第七條ノ一 寮費ハ一學年金貳拾貳圓トシ左ノ三期ニ分納セシム

第一學期分 金八圓 四月 自十五日 至二十一日

第二學期分 金八圓 九月 自十五日 至二十一日

第三學期分 金六圓 十一月 自二十五日 至三十一日

學期ノ中途入寮シタル者ハ寮費ハ月割トシ入寮ノ月ハ在寮一ヶ月ト看做ス

寮納期ノ初日ヲ過キテ入寮シタル者ノ當期寮費ヲ納入期日ハ入寮ノ日ヨリ七日間トス

學期ノ中途退寮スル者トナルモ既納ノ寮費ハ還還セズ當期分ハ別

第七條ノ二 食費ハ毎月十六日ヨリ其ノ月ノ末日迄ニ支拂フヘシ

寮納期ノ初日ヲ過キテ入寮シタル者ノ當期寮費ヲ納入期日ハ入寮ノ日ヨリ七日間トス

學期ノ中途退寮スル者トナルモ既納ノ寮費ハ還還セズ當期分ハ別

第七條ノ二 食費ハ毎月十六日ヨリ其ノ月ノ末日迄ニ支拂フヘシ

第七條ノ三 寮費及食費ヲ怠納スル者ハ其間登校ヲ差止ム  
第八條 各室人員ノ配當及人員檢査門限等ノ時刻ハ學校長ノ承認ヲ經テ生徒監之ヲ定ム

第九條 外出旅行歸省等ニ關シテハ左ノ手續ヲ經ヘシ

一、 外出ノ際門限時刻ニ遅ルヘキ事情アル者ハ豫メ其事由ヲ寮務課ニ届出ツヘシ

一、 已ムヲ得サル事故生シ門限時刻後歸寮セル者ハ直ニ遅刻ノ事

其事由ヲ寮務課ニ届出ツヘシ

寮十、 已ムヲ得サル事故ニ依リ門限時刻後特ニ外出セントスル者ハ

其事由ヲ明ニシ寮務課ノ認許ヲ受クヘシ

一、 旅行歸省若シテ臨時外泊セントスル者ハ豫メ其事由ヲ詳記シ

一、 生徒監ヲ經テ學校長ノ認許ヲ受クヘシ

寮十、 已ムヲ得サル事故ニ依リ門限時刻後特ニ外出セントスル者ハ



一、外出中前項ノ手續ヲ爲ス違ナクシテ外泊セル者ハ速ニ其事由

ヲ詳記シ外泊先ノ證明書ヲ添ヘ生徒監ヲ經テ學校長ニ届出テ

認許ヲ受クヘシ

第十條 寮生ニシテ寮内備付ノ器具等ヲ破壊若クハ亡失シタル時ハ

其情狀ニ依リ之ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第一號書式ノ門外ノ事項ニ關シテハ其事由ニ依リテ

相當ノ在學證書ヲ發給スルコトアルヘシ

相當  
印紙

私儀今般御校へ入學御許可相成候ニ就テハ御校在學中ハ學則ヲ誠  
實ニ遵守可致ハ勿論御校學籍ヲ脱シ候後ト雖モ在學中ニ生シタル

一切ノ義務ハ違背ナク履行可致候若シ違背致候節ハ連署者ニ於テ

一切之ヲ引受可申仍而證書如件

年 月 日

本籍族稱(戸主又ハ何某男又ハ弟)

現住所

何年月日生

本人ノ父兄若クハ父兄ノ責ニ任スヘキモノ

本籍族稱

現住所

本人ニ對スル關係

何 某 印

第六高等學校其同附屬



第六高等學校長何誰殿

第二號書式

卒業證

府縣族稱

何

某

何年月日生

何年月日生

右者本校高等科文(理)科甲(乙)類ノ學科ヲ修メ正ニ其業ヲ卒ヘタリ仍  
テ之ヲ證ス

年月日

校印

第六高等學校長位勳學位爵姓名

印

番

第三號書式

印紙

在寮誓書

私儀今般御校生徒寮ニ入寮致候ニ付テハ生徒寮諸規則堅ク相守リ  
可申此段相誓候也

本籍

族稱

戸主又ハ戸主何某何男(弟)

年類

年月日

姓

印

何年月日生



前書何某人寮致候ニ付テハ在寮中ハ勿論退寮後ト雖モ同人在寮中ニ係ル事件ハ拙者ニ於テ一切負擔可致候也

日本ノ父兄若クハ父兄ノ責ニ任スヘキ者

本籍族稱

年月日 現住所

職業

本人ニ對スル關係

姓 名 印

何年月日生

第六高等學校長何誰殿

第三書友

五、細則

第一章 授業規程

第六條 生徒ハ授業ノ始及終ニ於テ教官ニ對シ起立敬禮スヘシ

第二條 授業中ハ教官ノ許可ナクシテ教場外ニ出ツヘカラス

第三條 受持教官定刻ニ至ルモ教場ニ出場セサルトキハ教務課ニ間

合セ其ノ指揮ヲ受クルニアラサレハ決シテ隨意退散スヘカラス

第四條 課業上必要ナル物品ノ外ハ一切教場内ニ携帯スヘカラス

第五條 病氣又ハ已ムヲ得サル事故ニヨリ缺席セル者ハ生徒課備附

ノ承認簿ニ其ノ事由ヲ記シ當日ヨリ三日以内(休日ヲ除ク)ニ監督教

官ノ承認ヲ受クヘシ但三日以上引續キ缺席シテ本條ノ手續ヲナス



- 能ハサルトキハ最初ヨリ三日以内ニ書面ヲ以テ届出ツヘク又疾病  
七日以上ニ涉ルトキハ校醫ノ診断書ヲ差出スヘシ
- 第六條 遅刻又ハ缺課セントスルモノハ前條ノ帳簿ニ其ノ事由ヲ記  
シ豫メ其ノ最初ノ學科受持教官ノ承認ヲ受クヘシ但第一時限ニ於  
テ遅刻又ハ缺課セル者ハ當日中ニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第七條 監督教官缺勤退出等ノ爲期間内ニ承認ヲ受ケ難キトキハ生  
徒課ニ申出テ指揮ヲ受クヘシ
- 第八條 病氣ノ爲メ學期試業、行軍、實彈射擊等ニ缺課缺席スルモノハ  
届出ト共ニ校醫ノ診断書ヲ差出スヘシ
- 第九條 第五條及第六條ノ手續ヲ爲ササルモノハ無届ノ缺席日數、遅  
刻又ハ缺課回數ニヨリ總平均点ヨリ減点ス

第二章 生徒心得

- 第一條 本校生徒ハ本校規則、告示、命令ニ服従シ其ノ本分ヲ忘ルヘカ  
ラス
- 第二條 本校生徒ハ本校職員ニ對シテハ勿論生徒相互ニ脱帽敬禮ス  
ヘシ
- 第三條 本校生徒ハ嚴ニ飲酒ヲ禁ス
- 第四條 本校生徒ハ料理店又ハ風儀ヲ紊スノ虞アル場所へ出入スヘカラス  
第四條 屋内ニ於テハ教室ハ勿論指定以外ノ場所ニ於テ喫烟スヘカ  
ラス
- 第五條 本校所屬ノ建物及器物ヲ毀損シ若クハ汚染シタルモノハ辨  
償セシメ情狀ニヨリ懲戒ニ處ス
- 第六條 別ニ規程ヲ設ケタルモノ、外生徒ノ差出ス願届書ハ總テ監



監督教官ノ承認ヲ經ヘシメテハ本校ノ外ニ出テ集會スルコトヲ禁ズ

第七條 本校生徒及其ノ父兄若クハ之ニ代ハルモノニシテ其ノ宿所ヲ變更シ又ハ戶籍上異動ヲ生セシトキハ速ニ届出ツヘシメテ其ノ變  
 第八條 本校ノ告示ハ所定揭示場ニ發表ノ上ハ一般ニ知了シタルモ  
 第九條 本校生徒ハ舉テ本校所定ノ校友會員トナルベキ義務アルモ  
 第十條 本校生徒ハ本校所定ノ學費及雜費ヲ納付スルコトヲ義務トシ  
 第十一條 本校生徒ハ本校所定ノ校則ヲ遵守スルコトヲ義務トシ  
 第十二條 本校生徒ハ本校所定ノ學業成績ヲ修得スルコトヲ義務トシ  
 第十三條 本校生徒ハ本校所定ノ學業成績考査細則ヲ遵守スルコトヲ義務トシ  
 第十四條 本校生徒ハ本校所定ノ學業成績考査細則ニ違反スルコトヲ禁ズ

第三章 生徒集會規程

第一條 生徒ノ集會ハ總テ生徒課ノ認可ヲ經ヘシ本校生徒外ノ者ト  
 第二條 共ニスル集會モ亦同シ  
 第三條 但寮生ノミノ集會ハ寮務課ノ認許ヲ經ヘシ

第二條 級會、室會其ノ他相互ノ懇親ヲ目的トシテ集會ハ總テ集會所  
 第三條 生徒ハ本校生徒外ノ者ト共ニスル場合ニ於テモ料理店ニ集  
 會スルコトヲ許サズ

第四章 學業成績考査細則

第一條 各學科ノ成績ニ對シ評點ヲ附ス之ヲ學期評點及學年評點ノ  
 第二種トス各一百ヲ以テ最高點ト定ム

第二條 各學科ノ學期評點ハ當該學期間ノ日常ノ課業通常試業及學  
 期試業ノ成績ニヨリテ定ム



第三條 各學科ノ學年評點ハ各學期評點ノ和ヲ三ヲ以テ除シタルモ  
 ノトス  
 第四條 學期試業ニ缺席シタルモノニハ零點ヲ附ス其ノ缺席ノ理由  
 正當ナリト認メタルモノニハ第一若クハ第二學期試業ニアリテハ  
 他ノ學期評點平均數ノ十分ノ六ヲ附スルコトアルヘク第三學期試  
 業ニアリテハ該科目ノ第一第二學期評點平均數六十以上ナル場合  
 ニ限リ其ノ年四月上旬ニ追試業ヲ行フコトアルヘシ但第三學期試  
 業ニ缺席シタル場合ニ限リ平素ノ行狀學業成績出席狀況等ヲ考査  
 シ特ニ認定ノ上進級又ハ卒業セシムルコトアルヘシ  
 前項ノ追試業ニアリテハ其ノ評點ノ十分ノ八ヲ以テ得點トナス  
 學期試業ヲ缺クコト二回ニ及ヘル者ニハ學年評點ヲ附セス  
 第五條 停學ノ處分ヲ受ケタル者ニハ其ノ期間試業其ノ他ノ方法ニ

ヨリテ評點ヲ附スル事ナク解停後ト雖モ追試業ヲ行フコトナシ  
 第六條 學年ノ終ニ於テ各學科學年評點ノ平均數六十以上ニシテ左  
 ノ各號ノ一ニ當タルモノハ進級又ハ卒業セシム但行狀不正ノモノ  
 又ハ出席不良ノモノハ原級ニ止ム  
 一、學年評點六十未満ノ科目ナキモノ  
 二、學年評點六十未満ノモノ一科目アルモ其ノ評點五十以上ノモ  
 ノ又ハ其ノ評點五十以下四十以上ニシテ其ノ科目ノ學期評點數  
 六十以上ナルコト一回以上ノ者  
 三、學年評點六十未満ノモノ二科目アルモ其ノ評點孰レモ五十以  
 上ノモノ  
 四、學年評點六十未満ノモノ三科目以上アルモ其ノ數履修セル總  
 科目ノ三分ノ一或ハ三分ノ一以下ニシテ該科目皆學期評點六十



以上ナルコト一回以上ノモノ

第五章 通學生徒規程

第一條 通學生徒ハ宿所選定ノ日ヨリ三日以内ニ監督教官ノ承認ヲ經テ宿所届ラ生徒課ニ差出スヘシ轉宿ノトキ亦同シ

宿所届用紙ハ生徒課ニ申出テ交附ヲ受クヘシ

第二條 通學生徒ハ其ノ宿所ノ位置宿主人職業家庭ノ状態又ハ其ノ他ノ事情ニシテ不適當ナルトキハ他ニ轉宿ヲ命セラルルコトアルヘシ

第三條 通學生徒ニシテ生徒寮食堂ニ於テ食事ヲナサント欲スル者ハ寮務課ニ願出テ其指揮ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ生徒寮規程ヲ適用ス

第四條 通學生徒ニシテ生徒寮ニ於テ生徒ニ面會スルニハ必ス生徒寮應接室ニ於テスヘシ

第六章 監督教官規程

第一條 各組ニ監督教官一名ヲ置ク

第二條 監督教官ハ教官中ニ就キ學校長之ヲ命シ其ノ任期ハ一學年ニ間トス

第三條 監督教官ハ當該組ヲ統率シ風紀ヲ維持シ校規命令ノ實行ニ努メ教室内ノ秩序及清潔ヲ保持スヘシ

第四條 監督教官ハ所屬生徒ノ學業品行勤惰及健康ニ留意シ父兄ト聯絡シテ其ノ本分ヲ完ウセシメシコトヲ期スヘシ

第五條 監督教官ハ所屬生徒ヨリ差出スヘキ願届書ヲ審査スヘシ



第七條 各組ニ級長、副級長各一名ヲ置ク。其ノ候補者ハ互選セ

第二條 級長及副級長ハ其ノ組生徒ヲシテ若干名ノ候補者ヲ互選セ

第三條 級長及副級長ハ監督教官ノ指揮ヲ受ケ其ノ組ノ風紀ニ注意

第八條 評議員規程

第一條 本校ニ評議員若干名ヲ置ク

第二條 評議員ハ本校教授中ニ就キ學校長之ヲ命ス

第三條 評議員ハ學校長ノ諮詢ニ應シ意見ヲ述ブ

品質

第九章 教授會規程

第一條 教授會ハ本校教授ヲ以テ之ヲ組織シ學校長之ヲ召集ス

第二條 教授會ハ學校長ノ諮詢ニ應シ左ノ事項ニ付キ審議ス

授業ニ關スル事項

生徒ノ懲戒ニ關スル事項

生徒ノ監督ニ關スル事項

生徒寮ニ關スル事項

前項ノ外學校長ニ於テ必要ト認メタル事項



第三條 教授會ハ必要ニ應シ隨時之ヲ開クモノトス

第十章 服裝規程

第一條 本校生徒ノ服裝ハ左ノ如ク之ヲ制定ス

第一、帽

制式 海軍形

品質 羅紗

色 黒

第二、略帽

制式 綠縁三寸高二寸五分 緋鉢巻焦茶布巾一寸五分

品質 麥藁

三、帽 章

制式 前額部ニ本校所定ノ徽章ヲ附ス

外ニ額部ノ周圍ニ白線二條ヲ附ス

品質 眞鍮

四、冬 服

制式 立襟

品質 小倉若クハヘル

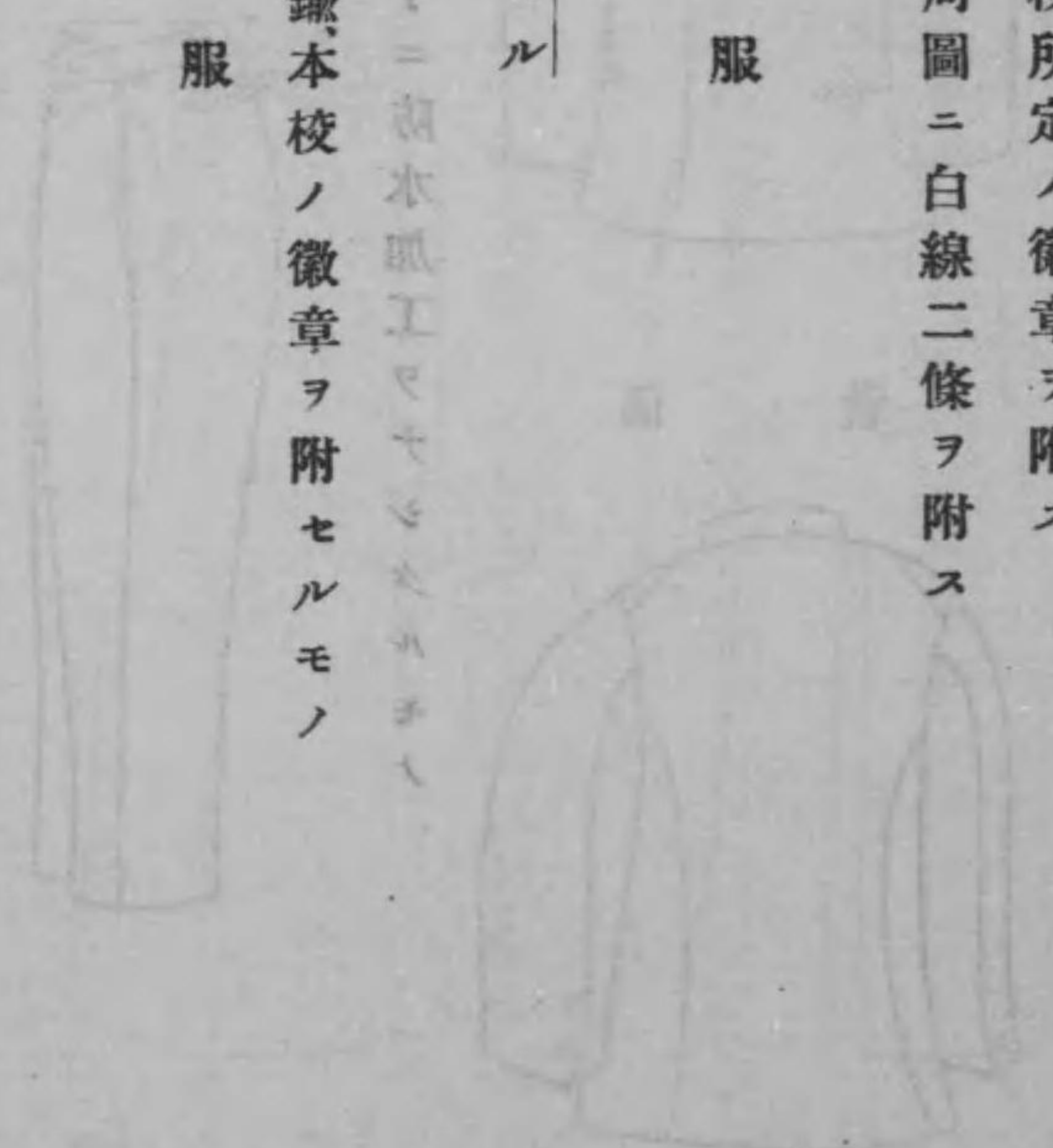
色 紺 紺緋 手織キニ絹本 爪工マヤシキハチキ

鈕釦 色黄、品質眞鍮、本校ノ徽章ヲ附セルモノ

五、夏 服

制式 冬服ニ同シ

品質 小倉





色 鼠

鈕釦 冬服ニ同シ

六、雨具

制式 圖ノ如シ

品質 黒細綾毛縐子ニ防水加工ヲナシタルモノ

鈕釦 黒色練物製

圖式 立襟

色 黒

品質 眞鍮

附式 長手襟、袖口、腰圍、白線ニ縫ヒテ補合

附式 腰圍、袖口、補合、縫合

品質 眞鍮









- 第二條 但日曜日ハ午後五時ヨリ之ヲ開ク
- 第三條 生徒ハ學年ノ初ニ於テ圖書課ヨリ閱覽票ノ交付ヲ受クヘシ
- 第四條 圖書ヲ借受ケントスルモノハ貸付用紙ニ所定ノ事項ヲ記入シ閱覽票ト共ニ之ヲ係員ニ差出スヘシ
- 但閱覽室備付ノ圖書ハ此ノ手續ヲ要セス
- 第五條 閱覽者ハ一時ニ洋書五冊和書十冊以上ヲ借受タルコトヲ得ス
- 第六條 借受ケタル圖書及閱覽室備付ノ圖書ハ之ヲ室外ニ携帯スルコトヲ得ス
- 第七條 借受タル圖書ハ他ニ轉貸スヘカラス
- 第八條 借受タル圖書ノ閱覽ヲ了リタルトキハ直ニ之ヲ返納シ閱覽票ヲ受取ルヘシ

- 第九條 閱覽室内ニテハ一切音讀談話其ノ他喧噪ノ舉動ヲナスヘカラス
- 第十條 借受ケタル圖書ハ鄭重ニ之ヲ取扱フヘシ若シ汚漬破損若クハ紛失シタルトキハ之ヲ辨償セシム
- 第十一條 前條ノ規程ニ違反スル者ハ退室ヲ命スルコトアルヘシ



### 六、掌務細則

#### 第一節 校務分掌規程

第一條 校務ヲ分掌セシムル爲左ノ各課ヲ置ク

教務課

生徒課

寮務課

庶務課

會計課

圖書課

第二條 各課ニ課長ヲ置ク

第三條 各課ノ課長ハ教授中ニ就キ學校長之ヲ命ス但寮務課長ハ生徒

徒盤中ニ就キ之ヲ命シ會計課長ハ會計主任ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 各課ノ課長ハ學校長ノ指揮ヲ受ケ當該課ニ關スル事務ヲ掌

理スヘシ

第五條 各課ニ係員ヲ置ク係員ハ上官ノ指揮ヲ受ケ各其ノ課ノ事務

ヲ處理ス

第六條 教務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 學課配當ニ關スル事項

二 教科書ニ關スル事項

三 授業上設備ニ關スル事項

四 教室ニ關スル事項(但特別教室ヲ除ク)

五 生徒ノ訓育及懲戒ニ關スル事項



- 六 教官會議及評議員會ニ關スル事項
- 七 教務上ノ命令傳達並通知ニ關スル事項
- 八 生徒ノ入學、在學、退學、休學ニ關スル事項
- 九 生徒ノ學籍ニ關スル事項
- 十 卒業生ニ關スル事項
- 十一 學級編成ニ關スル事項
- 十二 試業及成績ニ關スル事項
- 十三 學力檢定ニ關スル事項
- 十四 生徒證明書等ニ關スル事項
- 十五 生徒修學旅行等ニ關スル事項
- 十六 中參觀人取扱ニ關スル事項
- 十七 宣誓式ニ關スル事項

- 十八 前項以外教務ニ關スル一切ノ事項
- 第七條 生徒課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 生徒ノ風紀取締及衛生ニ關スル事項
  - 二 生徒ノ體格檢査ニ關スル事項
  - 三 生徒ノ訓誨及懲戒ニ關スル事項
  - 四 生徒ノ勤惰ニ關スル事項
  - 五 生徒控所ノ整理ニ關スル事項
  - 六 生徒ノ願、伺、届等ニ關スル事項
  - 七 生徒ノ集會、運動會及文書類ニ關スル事項
  - 八 團體旅行ノ取締ニ關スル事項
  - 九 級長及副級長ニ關スル事項
- 第八條 寮務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル



- 一 在寮生徒ノ風紀及衛生ニ關スル事項
- 二 在寮生徒ノ訓育及取締ニ關スル事項
- 三 在寮生徒ノ懲戒ニ關スル事項
- 四 在寮生徒ノ集會及文書類ニ關スル事項
- 五 生徒寮賄所病室浴室生徒集會所其ノ他生徒寮附屬建物ノ整理ニ關スル事項
- 六 生徒寮ニ屬スル守衛及賄方取締ニ關スル事項
- 七 前項ノ外生徒寮ニ關スル事項
- 第九條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 御聖影及勅語ノ保管ニ關スル事項
  - 二 校長ノ官印及校印ノ保管ニ關スル事項
  - 三 八 雇員以上ノ職員ノ進退身分ニ關スル事項

- 四 傭外國人ニ關スル事項
- 五 各課成案文書回議ノ審査ニ關スル事項
- 六 公文書類ノ起案記録ノ編纂及保管ニ關スル事項
- 七 公文書類ノ授受發送ニ關スル事項
- 八 諸規則ノ創定變更等ニ關スル事項
- 九 一覽統計報告等ニ關スル事項
- 十 儀式ニ關スル事項
- 十一 當直ニ關スル事項
- 十二 寄附願ニ關スル事項
- 十三 生徒ノ兵役ニ關スル事項
- 十四 各課ノ主掌ニ屬セザル校務上ノ事項
- 第十條 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル



- 一 資金ノ監理ニ關スル事項
- 二 資金ノ豫算及決算ニ關スル事項
- 三 歳入歳出豫算及決算ニ關スル事項
- 四 歳入ノ確定收入及證明ニ關スル事項
- 五 經費ノ仕拂及證明ニ關スル事項
- 六 物品ノ保管及購買ニ關スル事項
- 七 物品ノ貸借及修理ニ關スル事項
- 八 物品ノ出納及證明ニ關スル事項
- 九 營繕ニ關スル事項
- 十 警備並災害ノ防止及消毒ニ關スル事項
- 十一 本校内外ノ掃除ニ關スル事項
- 十二 不用物品ノ處分ニ關スル事項

- 十三 電話電燈及給水ニ關スル事項
- 十四 巡視守衛給仕校丁以下進退及取締ニ關スル事項
- 十五 門鑑ニ關スル事項
- 十六 人夫ノ傭入及其ノ取締ニ關スル事項
- 十七 物品ノ運搬並收受但小包郵便ヲ除クニ關スル事項
- 十八 前項ノ外會計ニ關スル事項
- 第十一條 圖書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 圖書ノ監守保管及出納ニ關スル事項
  - 二 圖書印ノ保管ニ關スル事項
  - 三 圖書ノ貸付ニ關スル事項
  - 四 圖書閱覽室及其ノ取締ニ關スル事項
  - 五 圖書ノ目錄編纂及整理ニ關スル事項



六 新聞雜誌年報一覽等ノ保管及出納ニ關スル事項  
七 前項ノ外圖書ニ關スル事項

第二節 事務員服務規程

第一 事務員

第一條 事務員ハ執務時限前ニ昇校シ直ニ出勤簿ニ捺印スヘシ

第二條 當日ニ生ジタル事務ハ可成即日處辨スヘシ若シ即日處辨ス

ヘキ事務ニシテ執務時間中ニ處辨シ終ラサルモノアルトキハ退校

時限ニ至ルト雖モ事務處辨ノ後ニアラサレバ退校スルコトヲ得ス

第三條 監督上官ヨリ特ニ命令アルトキハ執務時間外又ハ休日ト雖

モ執務スヘシ

第四條 疾病其ノ他ノ事故ニヨリ遅刻セントスルトキ又ハ出勤シ難

キ時ハ其ノ事由ヲ具シ執務時限前ニ學校長ニ届出ツヘシ但疾病ノ

爲缺勤一週間ニ及フトキハ届書ニ醫師ノ診斷書ヲ添フルヲ要ス爾

後一週間毎ニ同様ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 執務時間中發病其他ノ事故ニ依リ執務ノ場所ヲ離レントス

ルトキハ其ノ事由ヲ申告シテ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 父母ノ忌日ニ丁リ祭典ヲ舉行スル爲ニ不參セズトスルモノ

ハ其ノ旨前日中ニ届出ツヘシ

第七條 親屬ノ喪ニ遇ヒ忌服ヲ受クルトキハ死者ノ氏名並死者トノ

親屬關係ヲ表示シタル忌引届ヲ差出スヘシ

第八條 新任ノ者ハ七日以内ニ履歷書印鑑及宿所届ヲ差出スヘシ爾

後改印轉居等ハ其ノ都度届出ツヘシ

第九條 出張ノ命ヲ受ケタルモノハ出發ノ際及歸校ノ際共其ノ旨學



校長ニ届出ツヘシ  
前項ノ場合ニ於テハ歸校後五日以内ニ復命書ヲ學校長ニ差出スヘシ  
若シ學術研究ノ爲出張ヲ命セラレタル場合ニ在リテハ研究ノ結果ヲ報告スヘシ

第十條 出張旅費請求書ハ歸校後三日以内ニ差出スヘシ又出張先ニ於テ臨時必要ヲ生シタル費用即荷造用ノ物品代若クハ郵便電信料等私費繰替拂ヲ爲シタルモノアルトキハ歸校後三日以内ニ仕譯書ヲ添ヘ會計課ニ請求スヘシ但私費繰替ノ償還請求ニハ確實ナル證據憑ヲ添付スルヲ要ス  
第十一條 轉免ノ節ハ事務及物品等ノ引繼ヲ爲スヘシ引繼ハ書面ヲ作リ受渡者雙方連署ヲ以テ届出ツ  
第十二條 火器其ノ他危險物ニテモキテハ擔當事務員屬スルヲ否

深問ス事務員互ニ注意シ充分取締ヲ爲ス  
第十三條 風水震災其ノ他非常異變アルガ又異校内若クハ其ノ近傍ニ於テ出火アルトキハ速ニ昇校シテ上官ニ指揮ニ從フ  
第十四條 本則ハ教官及囑託者ニ準用ス

第二章 當直  
第十五條 本校當直勤務ハ本校書記及事務履員輪番ヲ以テ名宛之

ニ任ヌ其ノ順番ハ別ニ之ヲ定ム  
當直勤務ハ場合ニヨリ前項職員以外ノモテ命スルコトアルヘシ  
第十六條 當直時間ハ左ノ如ク定ム



第十一條 平日ハ退校時限ヨリ翌日昇校時限迄トス

二 休日ハ其ノ日ノ昇校時限ヨリ翌日ノ昇校時限迄トス

但昇校時限ハ當時ノ執務時間ノ規定ニ從フ

第十七條 左ノ諸項ノ一ニ當ルトキハ當直ヲ免ス

十一 出張ヲ命セラレタル者ハ出張中ハ勿論出張ノ前日又歸校ス

翌日

二 病氣其ノ他ノ事故ニヨリ本務ヲ缺クモノハ缺勤届出ノ當日

第十八條 前條ノ事由ニヨリ除直スルモノアルトキハ當直順ハ順次

繰上トス

第十九條 當直者止ムヲ得サル事故ニヨリ他ノ當直ノ義務アル職員

ヲシテ代番セシメントスルトキハ其ノ旨連署ヲ以テ届出ツヘシ

第二十條 當直ノ義務アル職員新任ノ時ハ出校ノ日ヨリ起算シ一週

日ノ後當直順番ニ挿入ス此ノ場合ニ於テハ他ノ當直者ノ順番ハ當然順次繰下クルモノトス又轉免者アルトキハ順番ノ繰上ヲナスヘシ

第二十二條 當直勤務ノ主要ナル事項ハ概ネ左ノ如シ

一 聖影奉安室及其ノ他ノ鎖鑰並當直日誌ノ保管ヲナスコト

二 巡視校丁等ヲ監督シ校舎内外一切ヲ取締ヲ爲スコト

三 往復物件ヲ處分スルコト

四 火器其ノ他火災ノ虞アル器物ニ對シテ注意スルコト

第二十四條 當直日誌ニハ左ノ諸件ヲ記載スルヲ要ス

一 巡視校丁火夫ノ氏名捺印

二 到著若クハ發送セシ物件ノ目錄







化學	理學士	山岡	望大	阪
英語	文學士	緒方健三	郎	福岡
歷史、地理	文學士	松本彦次郎	青森	
法制及經濟	法學士	石津稟三	岡山	
數學	理學士	山内友五郎	新潟	
英語	M. A. (Columbia)	中村	平長	野
修身、心理、獨語	文學士	飯沼龍遠	岐阜	
英語	文學士	山宮	允岡	山
英語	文學士	伊藤堯	識東	京
獨語	文學士	大本琢壽	岡山	
數學	理學士	三宅虎雄	岡山	
動物	理學士	佐藤林三	長崎	

(在外研究中)

M. A. (Columbia)

(在外研究中)

修身、心理及論理	文學士	中島信一	滋賀	
化學	理學士	高柳義一	宮山	
物理	理學士	宮原節	廣島	
國語	文學士	麻生磯次	千葉	
歷史	文學士	高橋謙	東京	
英語	文學士	高宮儀助	新潟	
數學	理學士	上總常雄	大阪	
數學	理學士	岩切晴二	宮崎	
植物及動物	理學士	河南宏兵	兵庫	
哲學概說、獨語	文學士	野田淨	滋賀	
獨語	文學士	山岡直道	北海道	
獨語	文學士	杉山茂	愛知	



國語	文學士	森敬三	和歌山
講師			
圖書	文學士	松尾哲太郎	岡山
獨語	文學士	雪山俊夫	富山
體操		服部克己	兵庫
體操		小林長二郎	岡山
圖書		吉田苞	岡山
英語		木畑竹三郎	岡山
礦物及地質	理學士	八木正衛	高知
體操		富森修三	宮城
英語	文學士	長谷川	赴神奈川
國語	文學士	小西謙	石川

獨備外國人教師

Dr. Phil. Edward Wildhagen 獨  
 B. Sc. (London) Anthony Fueti 英 國

小學室助教

體操 三島歡二郎 島根

柔道 金光彌一兵衛 岡山

劍道 千頭直之 高知

弓道 德山勝彌 太岡山

武術教師

板野榮次郎 岡山

森幸太 岡山



事務囑託

助手 手

物理學教室勤務

地質礦物學教室勤務

化學教室勤務

化學教室勤務

生物學教室勤務

物理學教室勤務

松本鐵太 岡山  
難波壽平 岡山

小野磯次郎 岡山  
河合堯永 岡山

八代實忠 岡山  
藤田親章 岡山

秋山義唯 岡山

澁谷整一 岡山

佐野健二 岡山

原正 岡山

吉田 豊 岡山

濱 堅之助 岡山

目黒寅太郎 岡山

岡本英一 岡山

才崎敏雄 岡山

成智史 岡山

相賀近男 岡山

醫學士 太田一也 岡山

圖書教室勤務 職員

學校醫

醫學士



評議員

教	教	教	教	教
授	授	授	授	授
滿田新造	秋月胤繼	雜賀修二郎	吉田貞一	許緒方健三郎

監督教官

文科一年甲一組  
 文科二年甲二組  
 文科一年乙組  
 理科一年甲一組  
 理科一年甲二組  
 理科一年甲三組  
 理科一年乙組  
 文科二年甲一組  
 文科二年甲二組  
 文科二年乙組  
 理科二年甲一組

教	教	教	教	教	教	教	教	教	教	教	教
授	授	授	授	授	授	授	授	授	授	授	授
山岡直道	松本彦次郎	森敬三	椎名十三	岩切晴二	上總常雄	大本琢壽	中島信一	三谷隆正	滿田新造	三宅虎雄	



理科二年甲二組  
 理科二年甲三組  
 理科二年乙組  
 文科三年甲一組  
 文科三年甲二組  
 文科三年乙組  
 理科三年甲一組  
 理科三年甲二組  
 理科三年甲三組  
 理科三年乙組  
 支那學生監督

監督教官

教 授 雜賀修二郎  
 教 授 山岡望  
 講 師 松尾哲太郎  
 教 授 飯沼龍遠  
 教 授 中村平  
 講 師 雪山俊夫  
 教 授 伊藤堯謙  
 教 授 山内友五郎  
 教 授 宮原節  
 教 授 高柳義一  
 教 授 滿田新造

學科主任

歷史、地理  
 國語及漢文  
 物理學  
 法制及經濟  
 化學  
 英語  
 數學  
 修身、心理及論理、哲學概說  
 動物、植物、及地質礦物  
 圖書  
 獨語  
 體操

教 授 滿田新造  
 教 授 秋月胤繼  
 教 授 雜賀修二郎  
 教 授 三谷隆正  
 教 授 山岡望  
 教 授 緒方健三郎  
 教 授 山内友五郎  
 教 授 飯沼龍遠  
 教 授 河南宏  
 講 師 松尾哲太郎  
 講 師 雪山俊夫  
 講 師 服部克己

學科主任



事務分課

長 事務課

長 事務課

長 事務課

長 事務課

長 事務課

長 事務課

長 事務課

長 事務課

長 事務課

長 事務課

長 事務課

長 事務課

長 事務課

生徒監

助教 三島歡二郎

書記 難波壽平

教授 緒方健三郎

講師 小林長二郎

講師 富森修三

助教授 三島歡二郎

書記 難波壽平

書記 目黒寅太郎

書記 岡本英一

書記 小沢勉太郎

書記 小沢勉太郎

書記 小沢勉太郎

書記 小沢勉太郎

書記 小沢勉太郎

書記 小沢勉太郎

書記 小沢勉太郎

書記 小沢勉太郎

書記 小沢勉太郎

書記 小沢勉太郎

書記 小沢勉太郎

書記 小沢勉太郎

書記 小沢勉太郎

書記 小沢勉太郎

書記 小沢勉太郎

事務分課

長 事務課

長 事務課

長 事務課

長 事務課

長 事務課

長 事務課

長 事務課

長 事務課

生徒監

助教 三島歡二郎

書記 難波壽平

教授 緒方健三郎

講師 小林長二郎

講師 富森修三

助教授 三島歡二郎

書記 難波壽平

書記 目黒寅太郎

書記 岡本英一







校友會中央部役員

會長  
副會長  
會誌部長  
柔道部長  
辨論部長  
端艇部長  
獨語部長  
英語部長  
弓道部長  
山岳部長  
會誌副部長

校長 小松倍一  
教授 滿田新造  
教授 秋月胤繼  
講師 松尾哲太郎  
教授 吉田貞一  
教授 椎名十三  
教授 山岡真道  
教授 緒方健三郎  
教授 石津稟三  
教授 飯沼龍藏  
教授 麻生磯次

庭球部長  
蹴球部長  
陸上競技部長  
劍道部長  
野球部長  
柔道教師  
劍道教師  
弓道教師  
校友會庶務主任  
校友會會計主任  
校友會會計係

教授 伊藤堯識  
教授 三宅虎雄  
教授 中島信一  
教授 高柳義一  
教授 宮原節  
助教授 金光彌一兵衛  
助教授 千頭直之  
事務囑託 德山勝彌太  
事務書記 小野磯次郎  
書記 板野榮次郎  
書記 松本鐵太



### 八、生徒姓名

(大正十四年六月一日現在)

備考姓名ノ上ニハ、出身中學校名ヲ記ス

#### 文科三年甲類一組

(四十一名)

(第一岡山)	植田 虎雄	岡山	(第一岡山)	石原 英夫	岡山
(興讓館)	森島 憲雄	廣島	(麻布)	廣崎 深	大分
(天城)	三竿 紋四郎	岡山	(富岡)	村崎 滿	徳島
(三次)	波邊 雄	廣島	(萩)	山中 茂	山口
(修士道)	小西 忠嗣	廣島	(廣島高師附屬中學)	坂田 修一	廣島
(廣島高師附屬中學)	勝村 金造	廣島	(第一岡山)	守屋 典郎	岡山
(第一岡山)	平賀 潤二	岡山	(姫路)	東郷 一郎	兵庫
(第一岡山)	吉村 博志	岡山	(廣島第一)	榎本 秀一	廣島

#### 文科三年甲類二組

(四十二名)

(麻布)	揖 場 保	兵庫	(丸龜)	内田 清太郎	香川
(第一神戸)	小島 元雄	兵庫	(第一岡山)	大 森 浩	岡山
(第一岡山)	小寺 三郎	岡山	(第一岡山)	森田 博光	岡山
(勝所)	奥村 幹男	滋賀	(第一岡山)	重成 二郎	岡山
(第一神戸)	濱田 眞次郎	兵庫	(天城)	三村 善壽郎	岡山
(福知山)	久保田 克巳	京都	(福知山)	熊谷 勝	京都
(京城)	信 原 統	岡山	(第一岡山)	上 住 大 豊	岡山
(福山)	三宅 忠三	廣島	(第二神戸)	藤田 孝三郎	兵庫
(京都第三)	熊谷 達之助	京都	(田邊)	竹中 義 郎	和歌山
(今宮)	龍田 千秋	和歌山	(福山)	高橋 道 章	廣島
(宇和島)	川 崎 俊 文	愛媛	(一高豫科)	莊 突 馨	支那
(廣島)	荒木 壽考	廣島	(一高豫科)	徐 日 從	支那
(津山)	渡邊 兼 貞	岡山			
(甲府)	島 村 稔	岡山	(第一岡山)	小松 原文松	岡山



(姫路)	谷本利夫	兵庫
(第一神戸)	石丸弘衛	兵庫
(高松)	真鍋茂一	香川
(耐久)	田口慎勇	和歌山
(第一岡山)	苔口章	岡山
(今宮)	中村芳次郎	大阪
(青島)	柴原満	岡山
(第一岡山)	黒住一得	岡山
(第二神戸)	吉田忠一	兵庫
(吳)	渡邊孝	岡山
(修道)	森日吉	岡山
(第一岡山)	湯淺健次	岡山
(第一岡山)	景山直治	岡山
(福山)	門田實	岡山
(三次)	岸本直行	岡山
(北野)	濱田常男	高知
(廣島高師附屬中學)	笠谷栄二	廣島
(岩國)	山田四朗	山口
(今宮)	大澤克己	愛媛
(姫路)	大田久彌	兵庫
(金光)	平田武之	岡山
(關西)	水川依夫	岡山
(第一岡山)	逸見賢二	岡山
(四條)	寺川光男	愛媛
(中央高等普通)	朴綾三	朝鮮
(第一岡山)	馬場好太郎	岡山
(第一岡山)	守屋秀雄	岡山
(天王寺)	小谷嘉三	大阪
(第一岡山)	大野榮一	岡山
(第一岡山)	犬飼慶夫	岡山
(岡山變)	光岡徹	岡山
(高津)	飯田人博	滋賀

文科三年乙類

(三十九名)

(第一神戸)	天野祐一	兵庫
(北野)	森下龜男	岡山
(一高橋科)	高橋翔鶴	支那
(大分)	岡野平吉	大分
(福山)	高橋實	岡山
(丸龜)	岡川勝平	香川
(第一岡山)	小野田快雄	岡山
(和歌山)	石橋長七	和歌山
(關西)	小島貞	岡山
(京都第一)	北村勝三郎	奈良
(修道)	梶川義郎	廣島
(今治)	三藤正	愛媛
(福井)	木田川勝雄	福井
(天城)	高原道治	岡山
(大垣)	中西捷兒	岐阜
(一高橋科)	雷榮珂	支那
(第一神戸)	井村景一	三重
(今宮)	井上修	和歌山
(丸龜)	金子正則	香川
(陸軍士官學校豫科)	川村尙賢	三重
(三豐)	埴田末平	香川
(關西)	脇本克己	岡山
(廣島高師附屬中學)	池内義郎	廣島
(伊丹)	松原實	兵庫
(第一岡山)	日笠百勝	岡山
(市岡)	澤田三郎	兵庫
(第一岡山)	佐藤正夫	岡山
(高梁)	三村亮一	岡山



(膳所)	猪飼昌一	滋賀	(關西)	井藤博	愛知
(郡山)	吉田日出男	奈良	(福山)	柴原八一	廣島
(福山)	作田正己	廣島	(第一岡山)	堺三稔	岡山
(第一岡山)	岡崎利正	岡山	(天城)	佐藤勝馬	岡山
(第一岡山)	杉山四郎	岡山	(台北第一)	金谷英實	福島
(龍野)	青木先友	兵庫	(芝)	安田新	東京
(旅順)	平松百治	岡山	(第一岡山)	高木八郎	岡山
(丸龜)	組橋和夫	香川	(今宮)	青木順一	大阪
(錦城)	佐野川操雄	山梨	(姫路)	丸山國雄	兵庫
(富田)	皿井真	岡山	(高松)	前田典之吉	大阪
(粉河)	谷口正夫	和歌山	(市岡)	藤剛三郎	岡山
(岸和田)	田中武夫	大阪	(吳)	中野勝吉	廣島
(第一岡山)	國富正勝	岡山	(郁文館)	伊澤安治	岡山
(高松)	植田勇二	香川			

理科三年甲類一組

(四十二名)

(平壤)	仁科太郎	岡山	(第一岡山)	片岡健雄	岡山
(丸龜)	國越藤市	香川	(高松)	木村峻	香川
(第一岡山)	三宅孝夫	岡山	(金光)	佐々木秀雄	岡山
(第二神戸)	中野代二	兵庫	(第一岡山)	江口馨	岡山
(第一横濱)	小野穉	岡山	(市岡)	中西幸男	兵庫
(第一岡山)	平松雪郎	岡山	(一高豫科)	萬新運	支那
(丸龜)	松田辰三	香川	(廣島第一)	宗像雅登	廣島
(豊岡)	達宮猛	兵庫	(麻布)	岡崎混	香川
(徳山)	田村十一	山口	(矢掛)	土屋夫助	岡山
(高梁)	遠見正志	岡山	(松江)	青砥正吉	島根
(太田)	宮下格之助	群馬	(關西)	小林真一	岡山
(高松)	飛谷忠弘	香川	(第一神戸)	岡村録一	岡山
(第一岡山)	更井一夫	岡山	(姫路)	大島卓爾	兵庫
(福山)	榊田徳一	廣島	(大連)	新名賢太郎	宮崎
(今宮)	近江榮吉	大阪	(八尾)	山添精三	大阪
(姫路)	石川正次	兵庫	(第一岡山)	河合堯晴	岡山



(岡山製)

阿比呂志 岡山

(廣島高師附屬中學) 田中利三郎 廣島

理科三年甲類二組

(三十九名)

(丸龜)	田中武雄	香川	(吳)	藤本俊雄	廣島
(興渡館)	北川渥美	廣島	(大川)	藤井松太郎	北海道
(第一岡山)	長尾不二夫	岡山	(吳)	深川朔郎	廣島
(高松)	松尾二郎	香川	(高松)	水内邦夫	岡山
(德島)	大北忠男	德島	(豊浦)	加茂忠恒	静岡
(第一神戸)	細川兵一	兵庫	(台南第一)	黄介養	台湾
(岩國)	豊島武彦	山口	(三豊)	新田勤	香川
(京華)	須藤陽三	高知	(第一岡山)	尾野田惠	岡山
(市岡)	宮川晶	大阪	(第一岡山)	島井博通	岡山
(第一岡山)	高田穰一	岡山	(福山)	安倍義彦	廣島
(高松)	松浦堅一	香川	(高松)	川田正夫	香川
(天城)	岩淺昂	北海道	(廣島高師附屬中學) 後	信次	島根
(山陽)	岸本涉	廣島	(津山)	野澤徳郎	岡山

理科三年甲類三組

(三十七名)

(三豊)	米谷彦三郎	香川	(吳)	佐藤輝五	廣島
(一高豫科)	朱季輝	支那	(天王寺)	岡村保雄	大阪
(矢掛)	立石春雄	岡山	(東京第一)	土田政名	東京
(榮上)	金光近夫	岡山	(天城)	守安虎治	岡山
(第一神戸)	大野貞一	福島	(田邊)	谷本治三郎	和歌山
(一高豫科)	陸榮圻	支那	(天城)	青井泉	岡山
(第一岡山)	佐藤正孝	岡山	(第一岡山)	山本啓三郎	岡山
(和歌山)	伊佐喜久雄	和歌山	(第一岡山)	本城明郎	岡山
(福知山)	長岡浩	京都	(台北)	木下清吉	大阪
(第一岡山)	横山久衛	岡山	(高松)	小川直秀	香川
(豊岡)	安田庄三郎	兵庫	(旅順)	飯田浩造	岡山
(吳)	三輪篤信	鳥取	(第一岡山)	石原忠之	岡山
(粉河)	松山紀陽作	和歌山	(第一岡山)	星島忠夫	岡山
(小濱)	大野清助	福井	(福山)	石井大蔵	廣島



(濱田)	能美武美島根	(東京)	鴻上光明愛媛
(姫路)	山本武兵庫	(第一岡山)	中村孟廣島
(矢掛)	中田富士男岡山	(第二神戸)	内藤慶一兵庫
(關西)	小田源太郎岡山	(津)	渡邊紋一三重
(第一神戸)	曾根忠三郎兵庫	(平壤)	山本哲次郎兵庫
(同志社)	北村秀弘京都	(第一岡山)	勝山蕭岡山
(高梁)	赤木次郎岡山	(西條)	村上徳太郎愛媛
(東京第二)	中島汀東京	(第一横濱)	廣瀬寛茨城
(一高豫科)	李寶華支那	(高梁)	山本好之助岡山
(京都第一)	森谷幹雄岡山	(第一岡山)	田中弘京都
(第二神戸)	太原輝彦兵庫	(今宮)	奥村恒次大阪
(今宮)	伊藤章三大阪	(第一岡山)	坂本正男岡山
(和歌山)	荻野了島根	(第一岡山)	中西正男岡山
(松江)	神尾正夫石川	(興讓館)	坂本運岡山

理科三年乙類

(三十七名)

(第二神戸)	山名正夫兵庫	(龍野)	今井福男兵庫
(第一岡山)	小津茂岡山	(上野)	田中玄太郎三重
(第一岡山)	藤田章夫岡山	(第一岡山)	小川壽岡山
(金光)	齋藤昌二岡山	(豊橋)	矢崎茂三千葉
(大垣)	加納恒久岐阜	(第一岡山)	内藤比天夫岡山
(姫路)	井上軫治兵庫	(一高豫科)	黄木立支那
(京都第二)	澁谷成利京都	(第一岡山)	太田克岡山
(姫路)	古閑忠夫福岡	(第二神戸)	前田秀三兵庫
(岡山愛)	久光守岡山	(第一岡山)	室賀不二夫静岡
(第一岡山)	古林隆碩岡山	(第一岡山)	菅田士郎岡山
(第一岡山)	高見孝志岡山	(丸龜)	川井清水香川
(姫路)	田隅克己兵庫	(吳)	松本茂人廣島
(第一岡山)	根岸五郎岡山	(鴻城)	中尾與一耶山口
(福知山)	野間深京都	(關西)	齋所清岡山
(關西)	神戸英雄岡山	(一高豫科)	陸所準支那
(第一岡山)	桑原利勝大分	(三豊)	漆川繁雄香川



文科二年甲類一組

(四十名)

(津一岡山)	木村杏二	岡山	(第一神戶)	高津春繁	兵庫
(廣島高師附屬中學)	永野輝雄	廣島	(第一神戶)	梅田種教	廣島
(丸龜)	阿河津一	香川	(第一岡山)	佐藤四郎	岡山
(芝山)	藤田信	岡山	(攻玉社)	藤川隆康	香川
(明治)	吉田一次	神奈川	(關西)	板野長八	岡山
(第一岡山)	山口保太	岡山	(第一神戶)	野村正治	大阪
(小野)	岡田修一	兵庫	(第一岡山)	尾原英夫	岡山
(田邊)	南出清一郎	和歌山	(德島山)	村上兼次	兵庫
(第一岡山)	寺本博見	岡山	(第一神戶)	杉本五一郎	石川
(岐阜)	高木一也	岐阜	(洲本)	立花昌夫	兵庫
(廣島第一)	池田修造	廣島	(北野)	福重隆	山口
(米子)	鎌田義俊	鳥取	(都野)	吉田次郎	大阪
(高松)	北村禎吉	香川		池田清秋	宮崎
(第一神戶)	稻垣一雄	兵庫			

文科二年甲類二組

(三十九名)

(關西)	東谷義人	廣島	(龍野)	畑山一男	高知
(天城)	上野明	岡山	(北野)	平尾直次郎	大阪
(第一神戶)	津川景明	兵庫	(天王寺)	杉浦康彦	大阪
(第二神戶)	藤井弘	岡山	(高松)	大山省三	香川
(今宮)	入江稔	岡山	(大川)	富士谷真之助	徳島
(高津)	勝部俊男	大阪	(一高操科)	劉競武	支那
(第一岡山)	高田誠一	岡山	(田邊)	杉若義三	和歌山
(第一岡山)	加藤巖雄	岡山	(天城)	網島康照	岡山
(大連第一)	金万弘	岡山	(宮津)	河田忠勳	京都
(第一岡山)	後藤勝利	岡山	(岡山)	河合武篤	岡山
(第一岡山)	大熊立治	岡山	(檢定)	江村重藏	徳島
(鳳鳴)	河南嵩	兵庫	(天城)	藤原英雄	岡山
(第一岡山)	陶浜捷太	岡山	(第一岡山)	三宅芳郎	岡山
(第一岡山)	中山三郎	岡山	(田邊)	山本彌七郎	和歌山



(田邊)	多屋弘	(第一岡山)	平田英一
(第二神戸)	三浦千澄	(彦根)	澤井浩三
(粉河)	田中宏	(三豊)	橋本克彦
(第一神戸)	石黒和夫	(小城)	早田正大
(聖峰)	菅義夫	(關西)	永井初九郎
(第一岡山)	岡本武三郎	(第一神戸)	中牧忠一
(第一岡山)	川邊武	(第一岡山)	屋葺輝之
(第一岡山)	松尾武夫	(第一岡山)	勝山安貞
(伊丹)	渡邊洗三郎	(第一神戸)	有岡春彌
(第一岡山)	栗阪多賀夫	(第一神戸)	白神勳
(粉河)	田島義寛	(福山)	渡邊深
(一高豫科)	郭寶森	(平壤)	帆足計
(第一岡山)	佐々木貞治	(高梁)	金澤覺太郎
(第一岡山)	天澤不二郎		岡山

文科二年乙類

(四十名)

(第一岡山)	藤井駿	(金光)	小林恭平
(北野)	福田利夫	(第一岡山)	三輪勝郎
(高松)	國成胤臣	(丸龜)	吉原峰夫
(富岡)	山田逸郎	(和歌山)	中島武雄
(萩)	内山誠	(京華)	渡邊茂
(高梁)	山岡操	(第二神戸)	佐賀孝三
(高松)	若林雄次	(第一岡山)	松田繁
(高松)	眞屋秀之進	(東京第五)	川口久彦
(第一神戸)	川崎克郎	(高松)	長谷川研二
(京城)	中山亮	(第二神戸)	境谷義英
(第一岡山)	楠原平	(粉河)	堀内正巳
(東京開成)	生沼曹喜	(東山)	小田幸三
(今宮)	酒井義貫	(丸龜)	青木直行
(上宮)	高瀬久太郎	(閑谷)	吉田義夫
(粉河)	坊秀男	(京城)	平田恒
(第一岡山)	上神銳二	(北野)	國友正



(岡山覺)	渡邊武夫	岡山	(京都第二)	工藤恒四郎	京都
(北野)	勝部十逸	兵庫	(修道)	美川佐郎	廣島
(一高豫科)	沈方大白	支那	(第一横濱)	武本正義	岡山
理科二年甲類一組 (四十名)					
(第一岡山)	真他博	京都	(第一岡山)	小見賢吾	岡山
(第一岡山)	大森誠	岡山	(德島)	犬伏義雄	德島
(大連第一)	玉井廉人	兵庫	(金光)	西島尙義	岡山
(廣島高師附屬中學)	渡部信夫	廣島	(第一神戸)	猪股光一	宮城
(粉河)	榎本一耶	和歌山	(第一岡山)	古澤嘉夫	福岡
(正則)	蘇子藍	台灣	(大川)	山口勝	香川
(高松)	高橋波	香川	(立命館)	島田字七	兵庫
(丸龜)	北山恒	香川	(關西)	小坂壽	岡山
(第二神戸)	巽巖	大阪	(第一岡山)	田淵義三郎	岡山
(第一岡山)	深谷克海	岡山	(第一岡山)	岡崎哲	岡山
(吳山)	野間元繁人	廣島	(第一岡山)	高戸龍一	岡山

(岡山覺)	藤枝一夫	岡山	(第一岡山)	守屋學治	岡山
(第二神戸)	赤木發郎	兵庫	(第一岡山)	近藤勇	岡山
(第一神戸)	山根登一郎	兵庫	(靜岡)	龜山孝致	靜岡
(廣島第一)	加茂下良重	福島	(第一岡山)	山崎喜三郎	岡山
(和歌山)	松島春海	和歌山	(甲府)	勝守清	東京
(相原)	岸本義男	兵庫	(今宮)	吉村五郎兵衛	大阪
(一高豫科)	陳濂之	支那	(第一岡山)	佐野義男	岡山
(釜山)	外山二郎	岡山	(北野)	青木直敏	大阪
(姫路)	飯田清	兵庫	(一高豫科)	袁愈沉	支那
理科二年甲類二組 (四十三名)					
(廣島第一)	中村靖之	福岡	(高松)	森山義一	香川
(東京第一)	竹井素行	岡山	(第一神戸)	越智明	愛媛
(今宮)	大江周三	大阪	(高松)	久保隆三	香川
(秋田)	青木弘	岡山	(横濱第一)	和田恒廣	神奈川
(第一岡山)	福井佐市	岡山	(丸龜)	宮島忠	香川



(廣島第一)	高木 實	(大分)	川島 溟夫	高知
(矢掛)	宮島 二郎	(高松)	鶴身 孝雄	香川
(日影館)	石田 文三	(修道)	增井 義雄	廣島
(郡山)	藤本 實	(第一岡山)	田中 幸一	島根
(耐久)	小山軍之助	(第二岡山)	酒井 一郎	岡山
(第一岡山)	岡野 勝之	(第二神戸)	竹内 順二	兵庫
(第一神戸)	平野 重哉	(關西)	高島 護	岡山
(龍野)	三村 忠	(高松)	三井 義亮	香川
(第一岡山)	佐藤 政一	(第一岡山)	三枝 鉄之助	兵庫
(第一岡山)	龜山 武一	(鳥取第一)	影山 壽男	鳥取
(北野)	香川 峻	(芝)	永井 源男	新潟
(第一岡山)	木村 庶幾	(北野)	大岸 九思夫	岡山
(曉星)	石田 武忠	(第一岡山)	久山 正策	岡山
(今宮)	大道 峯雄	(北野)	日下 春雄	岡山
(市岡)	森田 次郎	(高松科)	馬 貴臣	支那
(吳)	世戸 原利雄	(福山)	田久保 敬男	廣島

理科二年甲類三組

(四十二名)

(廣島高師附屬中學) 廣本 達吉	廣島	(第一岡山)	岡野 浩	岡山
(和歌山)	中井 新一郎	(第一岡山)	仁科 尙文	岡山
(富岡)	前田 寛	(東京第一)	佐藤 武夫	岡山
(和歌山)	奥野 久輝	(第一岡山)	瀬崎 文吉	岡山
(高松)	藤 哲夫	(津山)	藤山 嘉夫	岡山
(津山)	原田 忠	(龍山)	藤岡 康夫	岡山
(第一神戸)	脇屋 義郎	(第一岡山)	高橋 洋次郎	新潟
(大連)	脇 榮	(伊丹)	榊 憲吉	福岡
(築上)	井上 定一	(畝傍)	石腸 勝次	兵庫
(高松)	藤間 賢太郎	(第一岡山)	山岡 武夫	奈良
(和歌山)	青木 信一郎	(第一岡山)	中田 一夫	岡山
(成蹊)	池田 春樹	(三田)	黒田 章夫	岡山
(明治)	松原 義雄	(第二神戸)	増田 幸太郎	兵庫
			上田 敏夫	兵庫



(德島)	濱田秀雄	德島	(關西學院)	村松吉夫	靜岡
(第一神戸)	大上信雄	兵庫	(和歌山)	吉増一馬	和歌山
(和歌山)	近藤治博	奈良	(廣島高師附屬中學)	中村敏之	廣島
(靜岡)	長阪興男	靜岡	(和歌山)	土野敬三	和歌山
(成東)	山西金二	徳島	(第一岡山)	難波武夫	岡山
(東北學院)	菅野晴雄	東京	(一高豫科)	余炳文	支那
(高梁)	金岡英雄	岡山	(市岡)	杉山茂	大阪
(第二神戸)	竹田谷勳	兵庫	(第一岡山)	山田次郎	大分
(第一神戸)	高橋喜久夫	兵庫	(第一岡山)	虫明卯三郎	岡山
(金光)	佐藤静馬	岡山	(第一岡山)	橋本清	岡山
(三次)	伊崎宣行	廣島	(高松)	安藤登代明	香川
(金光)	佐々木加壽志	岡山	(第一岡山)	守屋睦夫	岡山
(延岡)	小野奈瓦	宮崎	(新宮)	久保巳年	和歌山
(高梁)	大杉眞造	岡山	(畝傍)	川本桂一郎	奈良

理科二年乙類

(四十二名)

(北野)	柴山次郎	大阪	(福知山)	遠見源吾	京都
(和歌山)	奥博	岡山	(鳥取第一)	岡村隆良	鳥取
(高梁)	日野西義輝	北海道	(第一岡山)	姫井淑	岡山
(第一岡山)	岡西綱三郎	岡山	(第一岡山)	山田良邦	岡山
(富岡)	中内義衛	徳島	(第二神戸)	佐伯幸夫	兵庫
(岡崎)	野崎達志	静岡	(高松)	石川昂	香川
(今治)	田房松太郎	愛媛	(高梁)	宮木輝夫	岡山
(第一岡山)	難波健二	岡山	(福知山)	富山慎治	岡山
(第一岡山)	川口敦夫	廣島	(豊岡)	秦一則	兵庫
(福山)	秋田敏夫	岡山	(第一岡山)	生田静也	岡山
(新宮)	生熊良文	和歌山	(高松)	藤岡榮治	香川
(一高豫科)	陳錫鑫	支那	(萩)	三浦不二夫	山口
(廣島第一)	石川博	廣島	(一高豫科)	彭乃琦	支那
(津山)	光永弘文	岡山	(前橋)	久保天博	群馬
(高松)	岡宏	香川	(第一岡山)	三好幸三	岡山

文科一年甲類一組

(四十一名)



(第一神戸)	田上郷平	山口	(關西)	大月勤	岡山
(龍野)	上田義文	岡山	(福山)	荒木茂久二	廣島
(第一岡山)	佐藤甲子郎	岡山	(矢掛)	松森英雄	岡山
(第一岡山)	水川春生	岡山	(第二神戸)	藤田靖二	兵庫
(第一岡山)	成本武	岡山	(第一岡山)	高橋俊士	岡山
(第一神戸)	栗井其繁	岡山	(第一岡山)	宇野善三	岡山
(高梁)	萩野正二	岡山	(東山)	藤澤見邑	香川
(第一岡山)	梅井清美	岡山	(福山)	大井重勝	廣島
(横須賀)	大塚泰二	大阪	(第二岡山)	三宅安衛	岡山
(田邊)	三月間道保	岡山	(中學海南)	島内義次	岡山
(龍野)	内海三繁	兵庫	(丸龜)	北村秀則	香川
(岩國)	木船直人	山口	(北野)	野口美雄	大阪
(第二岡山)	中田瀧登	岡山	(北野)	深井清之助	香川
(丸龜)	芥山唯雄	香川	(西條)	松本三千式	愛媛
			(第一岡山)	小澤彌太郎	山口
				鹽見眞澄	岡山

文科一年甲類二組

(四十名)

(台北第一)	渡邊美安	新潟	(横濱第一)	水田長義	長崎
(第一神戸)	中田貞治	兵庫	(第一岡山)	尾關四郎	岡山
(關谷)	高取馨	岡山	(關西)	西中十六一	岡山
(第一岡山)	江口最	岡山	(東京第一)	須川稅三	北海道
(一高豫科)	傅素支那				
(高松)	西本共介	香川	(高松)	松原寛	香川
(第一岡山)	西崎孝	岡山	(第二神戸)	加納制一	兵庫
(水更津)	石井謹吾	千葉	(白杵)	小川眞一	大分
(第二岡山)	藤村富士太郎	岡山	(關西)	菱木清	千葉
(第一岡山)	和田元	京都	(第一岡山)	窪田貞三郎	岡山
(第二岡山)	高田英治	岡山	(第一岡山)	出射義夫	岡山
(青英)	三好鹿雄	香川	(德島)	河崎正臣	德島
(第一岡山)	藤師寺大器治	岡山	(今治)	野間清	愛媛
(第一岡山)	藤崎元男	岡山	(廣島第一)	池田富雄	大阪



(第一岡山)	向井敬太	岡山	(津山)	齋藤淳	長野
(第一神戸)	宮田武志	岡山	(北野)	西川長敬	兵庫
(津山)	米田儀	岡山	(廣島第一)	荒谷千次	廣島
(福山)	片山夏治	岡山	(第一神戸)	磯野正俊	兵庫
(北野)	江村英雄	大阪	(廣島高師附屬中學)	桑田庸夫	廣島
(姫路)	山本峯雄	兵庫	(津山)	遠藤直一	岡山
(第二神戸)	角田豊三朗	兵庫	(膳所)	上田正平	兵庫
(高梁)	大塚篤夫	岡山	(福山)	小林多喜夫	岡山
(第一神戸)	松岡正治	兵庫	(東京第一)	安田經雄	東京
(福山)	工藤藤郎	岡山	(西條)	森康	愛媛
(千葉)	波邊保	千葉	(關西)	新座星男	岡山
文科一年乙類 (四十二名)					
(第一岡山)	根岸真六	岡山	(陸軍士官學校)	高田順勝	石川
(第二岡山)	岡田秀男	岡山	(鳥取第一)	有留倉治	鳥取
(第一岡山)	野宮一男	岡山	(第一神戸)	吉田照雄	福岡

(第一神戸)	長谷川耕一	兵庫	(徳島)	西田貞一	鹿兒島
(第二岡山)	柳井三浩	岡山	(第一岡山)	行田大藏	岡山
(第一神戸)	加茂下真男	福島	(第二岡山)	武内一雄	岡山
(小吳)	長澤親一	廣島	(高崎)	岸勇夫	群馬
(第一神戸)	中西良一	兵庫	(鳥取第一)	米原積	鳥取
(長岡)	勝沼四病治	兵庫	(第二岡山)	井上巖	岡山
(福山)	井手上大明	廣島	(廣島高師附屬中學)	十時健彦	廣島
(第二岡山)	陣水士	台湾	(廣島第一)	米田一男	廣島
(畝傍)	横田利平	奈良	(第一岡山)	光永邦彦	岡山
(撫養)	矢部清	徳島	(太田)	小林勇	群馬
(第二神戸)	高倉隆	兵庫	(茨木)	山口寅雄	大阪
(丸龜)	高木孝詮	香川	(高松)	横江文幹	香川
(高梁)	小橋確治	岡山	(關西)	杉本敏夫	岡山
(高知城東)	多田健二郎	高知	(第一岡山)	三上豊	岡山
(第一岡山)	大月桂太郎	岡山	(京都第一)	澤田勇	兵庫
(關西)	藤本誠志	岡山	(關西)	藤原清文	岡山



(米子)  
(一高豫科)

米村 健  
漆相 衛  
支那

(丸龜)  
(一高豫科)

前田 一良  
葛文 宗  
支那

理科一年甲類一組

(四十二名)

(廣島第一)  
(第一岡山)  
(福山)  
(今宮)  
(岩國)  
(第二神戶)  
(八尾)  
(京都第二)  
(今治)  
(第一岡山)  
(第二神戶)  
(第一岡山)

岡田 實三  
笹原 敏男  
博田 五六  
中村 正毅  
田中 武雄  
山口 英太郎  
上田 建洋  
吉田 久雄  
渡部 義雄  
安原 彰一  
稻田 龍三郎  
内藤 達雄

(廣島第一)  
(那山)  
(德島)  
(廣島高師附屬中學)  
(高松)  
(第一岡山)  
(第二岡山)  
(開成)  
(修道)  
(龍野)  
(和歌山)  
(丸龜)

勝原 享三  
森田 尚文  
小溝 協三  
眞谷 志朗  
村主 正義  
久城 修一郎  
平松 賴夫  
宮崎 道治  
村尾 貞夫  
長安 實  
島本 義九郎  
岩井 淳一

理科一年甲類二組

(四十一名)

(郡山)  
(甲陽)  
(米子)  
(島原)  
(京都第二)  
(丸龜)  
(高梁)  
(今治)  
(一高豫科)

中原 義昌  
笠原 武夫  
田中 剛  
朝永 次夫  
藤村 義夫  
中村 勉  
馬瀬 太一  
今井 健三  
鄭長 群

(第一岡山)  
(關西)  
(田邊)  
(福山)  
(福山)  
(第二岡山)  
(濱松)  
(第一岡山)  
(一高豫科)

伊達 富久  
犬飼 嘉積  
金谷 純男  
寺岡 節也  
小林 治人  
淺沼 清志  
有木 悉太郎  
牧野 仁郎  
馬希 璘



(第一岡山)	山本和夫	岡山	(東京第三)	清水嘉三郎	岡山
(第一岡山)	三島芳徳	岡山	(岐阜)	高木博二	岐阜
(三)	合田史郎	香川	(高松)	山口敏博	香川
(吳)	大野勤次郎	廣島	(福山)	寺岡正	廣島
(津山)	坪田康	岡山	(第二岡山)	難波善次郎	岡山
(上宮)	吉川次郎	大阪	(三)	合田秀雄	香川
(第一岡山)	貝原静太郎	岡山	(吳)	早川仁	山梨
(丸龜)	松浦陽憲	香川	(福知山)	内藤行雄	京都
(郡山)	飯田一男	京都	(撫養)	吉田稔雄	徳島
(今宮)	高津俊久	大阪	(津山)	四宮安平	岡山
(室蘭)	増戸武夫	山形	(新宮)	向畑正三	和歌山
(第二岡山)	友保誠	岡山	(福知山)	二岡南	島根
(第一岡山)	井上忠美	岡山	(福山)	志田原群三	廣島
(開成)	岡清隆	岡山	(第二神戶)	谷川英雄	長崎
(第一岡山)	岡本平八郎	岡山	(第一岡山)	趙澤宗	支那
(一高豫科)	藤宗興	支那			

理科一年甲類三組

(四十一名)

(堺)	山本清	大阪	(第一神戶)	岡田篤雄	岩手
(第一神戶)	有賀茂	兵庫	(富田)	堀憲義	三重
(岩國)	山縣廣	山口	(廣島高師附屬中學)	原田克昭	廣島
(甲陽)	伊集院武雄	鹿兒島	(第一神戶)	西村甲一	兵庫
(第一岡山)	橋本與平	岡山	(第二神戶)	根本一耶	茨城
(修道)	宇津志俊介	廣島	(宇和島)	玉井申二郎	愛媛
(第一岡山)	行本隆	岡山	(高松)	森重夫	香川
(小野)	佐伯武男	兵庫	(三)	角田高八	香川
(天王寺)	志水清	大阪	(濱田)	千代延暉士	島根
(郡山)	北村芳美	奈良	(第一岡山)	野上強四郎	岡山
(柏原)	岸本秀雄	兵庫	(第二岡山)	野崎澄治	岡山
(天城)	三宅克治	岡山	(第一岡山)	赤木幹一	岡山
(第一岡山)	井上太郎	岡山	(和歌山)	河島寛	和歌山
(關東學院)	蒲池真人	東京	(金澤第二)	伊藤綱助	石川



(第一神戸)	服部順五	兵庫	(京都第三)	竹澤徳英	京都
(撫養)	伊藤次裕	徳島	(堺)	栗本榮一	大阪
(岡山豊)	杉義夫	岡山	(耐久)	岩崎伸	和歌山
(第一岡山)	杉本徹	岡山	(丸龜)	平澤正欣	香川
(第一岡山)	荒木久治	岡山	(第二岡山)	香川三六	岡山
(姫路)	宮地榮三	廣島	(第一岡山)	竹内敬之	岡山
(一高豫科)	萬建楚	支那			
理科一年乙類 (三十九名)					
(廣島高師附屬中學)	栗根岩男	廣島	(廣島陸軍幼年)	進藤剛	廣島
(三豊)	加藤新	香川	(旅順第一)	藤原正	岡山
(廣島高師附屬中學)	木村忠儀	山口	(大垣)	杉野修二	岐阜
(天城)	佐藤直泰	岡山	(高松)	平田穰	香川
(神戸第二)	葛野恒次郎	兵庫	(第二岡山)	木田文夫	岡山
(天王寺)	長野毅	岡山	(第一岡山)	吉田雅雄	岡山
(第二岡山)	加賀美寛	岡山	(京都第二)	倉橋喜弘	愛知

(三豊)	渡邊希壽	香川	(徳島)	橋本政雄	徳島
(天王寺)	野口利代三	大阪	(豊岡)	小西公三	兵庫
(京都第一)	柳田秀一	京都	(第一岡山)	小坂昭男	岡山
(徳島)	英賀利忠	岡山	(田邊)	羽山昇	和歌山
(第一岡山)	志茂正規	岡山	(津山)	西下止夫	岡山
(半田)	廣田脩	愛知	(神戸第一)	長谷隆四郎	兵庫
(今治)	井出喜代逸	愛媛	(第一岡山)	高原正也	岡山
(第一岡山)	野崎升二郎	岡山	(第二岡山)	梶谷鏡	岡山
(畝傍)	澤井郁次郎	奈良	(上野)	田中博太郎	三重
(徳島)	木村英夫	大分	(明治)	小出博	兵庫
(第一岡山)	山本庸夫	岡山	(第二神戸)	花岡晟	三重
(第二神戸)	古川洋	熊本	(京都第一)	森田政夫	京都
(天城)	三宅義夫	岡山			







東、醫	丹羽元亮三重	東、醫	池端俊雄和歌山	東、醫	多胡雄岡山
東、醫	岩野誠一三重	京、醫	笠原道夫大阪	東、醫	井上善吉茨城
京、醫	吉永福太郎廣島	東、醫	齊藤和策靜岡	東、醫	佐久間泰治愛知
東、醫	早野龍三岐阜	京、醫	好本節大阪	京、醫	原藤幸一山梨
京、醫	野村久中愛知	京、醫	竹内伊三大阪	九、醫	望月代次岐阜
九、醫	辻野保和歌山	九、醫	蜂須賀誠二靜岡	九、醫	角田弘之兵庫
九、醫	遠見長衛京都	九、醫	森小一大阪	九、醫	鶴見藤太香川
九、醫	加藤尙義岡山				

○第二回卒業生

(明治三十七年七月五日卒業)

計百三名

一部甲

(二十一名)

東、文	高橋文五郎岡山	東、法	榑原政一宮崎	東、法	横田誠一岡山
東、文	相原熊太郎愛媛	京、法	松本卓爾岡山	京、法	加計正文廣島
京、法	森本豊治郎兵庫	東、法	關屋政徳島根	京、法	藤田積造佐賀
東、法	金万庸次岡山	東、文	浦瀬七太郎長崎	東、法	中院富壽京都

京、法	山郷龜太郎奈良	京、法	山田一高知	東、法	御牧徳三岡山
京、法	石井林藏岡山	東、文	月部十二郎岡山	京、法	重田幸吉徳島
京、法	日笠祐太郎岡山		佐藤鏡一静岡	京、法	柳原達大阪

一部乙

(十九名)

東、法	築島信司廣島	東、法	山本芳治兵庫	京、法	西村甫太郎宮崎
東、法	望月政友和歌山	東、法	大河内又太郎和歌山	東、法	千葉誠一廣島
東、法	今福新一廣島	京、法	木村得多香川	東、文	瀬尾武次郎廣島
東、文	金井四郎群馬	京、法	中上友三郎福岡	京、法	川村龍雄長野
京、法	高崎秀雄鹿児島	京、法	清水稼太郎岡山	京、法	小笠原顯大阪
東、法	板野孝一兵庫	京、法	大里與謝郎福岡	東、文	春日主税福井
京、法	關口親岐阜				

二部甲

(三十名)

東、工	大口章次岡山	京、工	那須頼太郎岡山	京、工	永瀬達太郎岡山
京、工	石井格一岡山	京、工	合田松太郎兵庫	東、工	數田春魚岡山



京、理	河上幹次	岡山	京、工	×遠藤三武	岡山	京、工	玉島光三	廣島
東、工	西松唯一	愛媛	京、工	×高田郁三	大阪	京、工	中村正義	岡山
京、工	×清水惠助	岡山	京、工	安田靖一	兵庫	京、工	長谷川清治	兵庫
京、理	鍵和田悌治	神奈川	東、工	山田彰	東京	京、工	安井直術	廣島
東、工	×別所泰	岡山	京、工	中井義雄	和歌山	東、工	齋藤貞一	廣島
東、工	三野熊雄	香川	東、工	三木達治	廣島	東、工	藤積善三	那賀
京、工	安川昇一	千葉	東、工	奈良原三次	鹿兒島	京、工	林專之助	愛媛
東、工	上月清次	岡山	東、工	川村号	愛知	東、工	山田靜岐	阜
東、林	加藤恂四郎	岡山	東、農	綾田豐	香川	東、農	×青山鋼成	愛知
東、林	貴島圭三	岡山	東、醫	三橋玉見	岡山	京、醫博	武田鹿雄	高知
東、醫	赤松得二	岡山	東、醫	光木天造	廣島	京、醫博	田中文男	兵庫
東、醫博	小泉親彦	福井	京、醫	福田康甫	山口	京、醫	土井留之助	愛知
京、醫	平田達次	岡山	京、醫	福田康甫	山口	京、醫	土井留之助	愛知

二部乙 (四名)

三部 (二十九名)

京、醫	加藤博之	愛知	京、醫	×有馬昇平	鹿兒島	東、醫	深澤精四	兵庫
東、醫	篠原牧之助	兵庫	京、醫	水河序平	岡山	京、醫	小川六三	東京
東、醫	馬淵享三	静岡	京、醫	片山泰吉	廣島	九、醫	香野	岡山
京、醫	秋田哲千葉	千葉	京、醫	小林和三郎	廣島	京、醫	村上進	岐阜
九、醫	佐野良太郎	秋田	九、醫	西幹敏平	大阪	九、醫	×井戸泰	岡山
九、醫	岩本護	岡山	九、醫	伊藤應隆	愛知	九、醫	守屋辰巳	岡山
九、醫	×柴田信衛	埼玉	九、醫	黒田憲夫	廣島	九、醫	守屋辰巳	岡山

○第三回卒業生

(明治三十八年七月三日卒業)

計百六十名



東、文	緑田芳太郎	千葉	京、法	三浦虎雄	宮崎	東、法	山田五郎	東京
京、法	×生田廣藏	鳥取	京、法	角南美貴	岡山	東、法	安藤一	東京
京、法	城榮太郎	兵庫	東、法	大橋信吉	岡山	東、文	岡本立彦	岡山
京、法	田中彰治	東京	京、法	松岡誠一	廣島	東、法	山岡剛	岡山
京、法	酒井岩太郎	佐賀	東、文	服部品吉	岡山	東、法	齋藤秀三	兵庫
東、法	加藤喜一	廣島						

一部 乙

(二十八名)

京、法	和田駿	和歌山	東、法	×大江清太郎	岡山	東、法	×高橋三郎	東京
東、法	松岡信義	岡山	東、法	今井龜三郎	群馬	東、法	谷川浩	東京
東、法	安達房治	愛知		伊藤辰次郎	京都	東、法	西村禎一	岡山
京、法	岩崎信一	京都	東、法	岡村芳太郎	愛媛	東、法	×山口五三	岡山
×下坂廣世	静岡	東、法	三澤源三郎	栃木	京、法	細野長良	富山	
京、法	今井令吉	岐阜	京、法	森田格藏	廣島	東、法	岩村通世	東京
東、法	竹内虎太郎	香川	東、法	犬丸殿	岡山	京、法	伍賀喜太郎	岡山
東、法	三原梓	徳島	京、法	×守安恒太郎	岡山	東、法	岡本友三郎	廣島

東、法 富岡久治 耶秋田

×請岡 隆茨城

松田幾三郎 徳島

京、法 名越素行 廣島

二部 甲 (工科)

(十七名)

東、工	博宮崎	虎一	香川	東、工	田中實	東京	東、工	小室静夫	東京
京、工	博難波元弘	岡山	東、工	鈴木二耶	茨城	東、工	柳本直人	京都	
東、工	秋田久廣	島	京、工	若林信明	鳥取	東、工	大瀧照太郎	岡山	
東、工	×柳下亮一	静岡	東、工	小山三郎	京都	東、工	勝本永二	香川	
東、工	齋藤實理	兵庫	東、工	×兒玉定次	愛知	東、工	林勝二	福島	
東、工	川井一	岐阜	東、工	玉村滋雄	東京				

二部 乙 (理科) (三名)

京、工	博野田清一	岡山	京、理	池部季胤	岡山	東、理	博桑田義備	大阪
-----	-------	----	-----	------	----	-----	-------	----

二部 乙 (農科) (八名)

×肥瓜美貞	兵庫	東、農	博木村哲二	岡山	東、農	博近藤萬太郎	岡山	
東、農	竹内秀雄	愛媛	東、農	×樋口千五郎	新潟	東、農	藤田豊奈	長
東、農	博山川	淘東京	東、農	米津政賢	東京			



東、醫	伊藤 正雄	廣島	京、醫博	清野 謙次	靜岡	×安藤 春雄	岐阜
東、醫	春藤 藤	藤岡山	東、醫	×森 彌三郎	香川	京、醫	野村 巖
東、醫博	近藤 見長	岡山	京、醫	梶谷 齊	岡山	東、醫	河野 建輔
京、醫	香川 傳香	川	東、醫	内田 一也	廣島	東、醫博	松山 陸郎
京、醫博	池田 誠一	大阪	九、醫	×太田 一也	岡山	京、醫	原田 彌久
京、醫博	石川 芳治	奈良	九、醫	×野川 彬	岐阜	京、醫	渡邊 八次
九、醫	×鈴木 慎吾	茨城	京、醫	平野 一貫	愛知	京、醫	千原 寛
九、醫	赤枝 守一	岡山	九、醫博	入野 賢二	愛知	京、醫博	小津 孟
九、醫	鈴木 頼衛	岡山	九、醫	酒匂 龍助	鹿兒島	九、醫	神森 利雄
九、醫	神原 初太郎	神奈川					

二部乙 (藥學科) (一) 名  
 (二十八名)  
 東、醫 伊藤 正雄 廣島  
 東、醫 春藤 藤 藤岡山  
 東、醫博 近藤 見長 岡山  
 京、醫 香川 傳香 川  
 京、醫博 池田 誠一 大阪  
 京、醫博 石川 芳治 奈良  
 九、醫 ×鈴木 慎吾 茨城  
 九、醫 赤枝 守一 岡山  
 九、醫 鈴木 頼衛 岡山  
 九、醫 神原 初太郎 神奈川

○第四回卒業生

(明治三十九年七月二日卒業)

計百三十一名

東、文	栗林 宇一	秋田	東、法	高崎 勝文	岡山	×長谷川 巖	靜岡
東、文	宮西 甚兵衛	香川	東、文	齋藤 文賀	岡山	東、法	丸尾 俊彦
京、文	羽溪 了諦	福井	東、法	伊達 四雄	和歌山	東、文	次田 潤
東、法	津田 弘正	岡山	東、法	森信 敬二	廣島	東、文	×齋藤 哲四郎
東、文	河本 修三	兵庫	東、文	中根 倫	廣島	東、文	阪部 武三
東、法	×龜山 保夫	岡山	東、法	森田 司樓	廣島	東、法	飯田 喜藏
東、法	中村 藤兵衛	群馬	東、文	三井 芳太郎	宮崎	東、法	尾崎 庄兵衛
京、法	關谷 善一	東京	東、法	河村 嘉一郎	佐賀	京、法	豐田 著壽
京、法	石田 鉄雄	廣島	京、法	細川 兵一	廣島	京、法	×畔見 又四郎
東、法	水野 鶴之助	大阪	東、法	伊東 祐啓	鳥取	東、法	井上 秀堯
東、文	仲榮 壽崎	玉	東、法	瀧川 秀雄	大分	東、法	小林 一九郎

一部甲 (二十七名)

一部乙 (三十五名)



京、法	×吉田次郎	神奈川	京、法	吉田真策	廣島	東、法	辻敬三	東京
京、法	浦野義隆	大阪	東、文	岩城平之助	富山	東、法	太田吾一	靜岡
東、法	三田村富彌	岩手	東、法	澤井无善	熊本	東、法	×北島武治	東京
×杉山	茂岡山	東、法	稻山常勝	東京	東、法	今村信吉	東京	
×楠元	支愛知	京、法	岡田勇次郎	京都	東、法	杉野繁	東京	
東、法	角倉晋造	岡山	東、法	難波良藏	香川	東、法	香西俊雄	岡山
東、法	藤堂景吉	東京	京、法	岸本銳次郎	岡山	東、文	宇野武男	岡山
東、法	眞野濟藏	和歌山	東、法	長井喜太夫	長野	東、法	田口易之	岡山
東、法	×内藤憲吉	岡山	東、法	吉田敬三	千葉	東、法	日高明	宮崎
東、法	米田嘉一	京都	東、法	岡田茂登次郎	岡山			

二部甲 (二十三名)

東、工	馬場象夫	香川	東、工	明石三二	岡山	東、工	米柄健次郎	新潟
東、工	高橋順一	廣島	東、工	内田嘉吉	岡山	東、工	藤岡郊二	岡山
京、工	鈴木貫一	廣島	東、工	荒木文四郎	岡山	東、工	×小藤眞治	島根
東、工	×藤田邦太郎	岡山	東、工	北島義麿	佐賀	京、工	中村誠	東京

東、工	櫻井重助	愛知	東、工	衣斐圭藏	福岡	東、工	古橋柳太郎	東京
東、工	薬師寺主計	岡山	東、工	津川掌事	廣島	京、工	鈴木順三	大阪
東、工	眞野正雄	東京	東、工	江田秀太郎	岡山	東、工	眞島寅三郎	長野
京、工	田代信嗣	東京	京、工	小村捨楠	和歌山			

二部甲 (十四名)

東、理	志賀潔	東京	東、理	關口雷三	石川	東、理	樫田茂一	兵庫
東、獸醫	渡邊中長	野	東、林	湯淺新平	岡山	東、林	長山邑陸	愛媛
東、林	西垣晋作	奈良	東、林	門田信一	徳島	東、農	日野富三郎	愛媛
東、農博	奥田讓	東京	東、農	×奥澤雅四郎	茨城	東、農	瀨谷元利	茨城
東、農	小西龜太郎	東京	東、獸醫	田川謙吉	北海道			

三部 (三十二名)

東、醫博	宮川米次	愛知	東、醫博	加用信憲	高知	東、醫	×蛇目將監	兵庫
東、醫博	酒井繁	東京	京、醫	渡邊守信	岐阜	東、醫	三戸雄輔	廣島
京、醫	×結城玄通	廣島	京、醫博	景山万治	岡山	東、醫	宮部昇	東京
京、醫	藤本理市	徳島	京、醫	松下字太郎	徳島	九、醫	吉田章信	岡山



京、醫	西村方義	山梨	京、醫	清水	穎兵衛	京、醫	吉馴信安
京、醫	森川修吾	和歌山	京、醫	帶包	定香川	九、醫	博間田亮次
東、醫	佐藤秀太郎	長野	九、醫	金尾靜衛	廣島	京、醫	鷺山英一
九、醫	志熊二郎	廣島	九、醫	望月章	茨城	九、醫	安達憲二
東、醫	大河原市太郎	群馬	×石田訓造	廣島		東、醫	松本喜代美
九、醫	岩谷高明	秋田	九、醫	穴倉綱助	新潟	九、醫	藤井從橋
九、醫	長谷川大藏	和歌山	九、醫	木村又八	香川		

○第五回卒業生

(明治四十年六月三十日卒業)

計百三十七名

一部甲

(三十一名)

東、法	松本學	岡山	東、法	藤田慎治	岡山	東、法	×玉井龍島
東、法	高草朴介	岡山	東、文	安井辰衛	岡山	東、法	白根松介
東、法	辻重雄	東京	東、文	堀江耕造	静岡	東、法	木島駒藏
東、文	×大野正一	千葉	東、文	四宮謙之	愛知	東、法	荻野友好
東、法	×高橋禎二	東京	東、法	神田純一	山口	東、法	大森盛太

一部乙

(二十二名)

東、法	渡邊六郎	東京	東、法	小田島信一	秋田	東、文	大佛大衛
東、法	大澤正五郎	岡山	東、法	井本定祐	山口	東、法	木村重樹
東、法	九鬼三郎	京都	東、法	竹田隆平	静岡	×萩原四郎	静岡
東、法	宮本純長	長野	東、法	天野彦三	廣島	京、法	鴨脚光康
東、法	大村金治	岡山	東、法	岩永新太郎	佐賀	東、文	小松清吉
京、法	吉岡秀樹	東京					
東、法	有田勉三	山口	東、法	久壁茂	鳥取	東、法	大館義一
東、法	高野茂基	東京	東、法	土田新太郎	東京	東、法	廣田定之
東、法	山本直太郎	京都	東、法	高橋忠雄	和歌山	東、法	武谷成直
東、法	×室田秀松	石川	東、法	三木進一	香川	東、法	草尾可造
東、法	岩崎	福岡	東、法	×根本大助	茨城	東、法	川島高富
京、文	原真乘	島根	東、法	渡邊充郎	栃木	東、法	矢野爲吉
東、法	原田哲雄	滋賀	東、法	榎本安盛	和歌山	東、法	工藤恒義
東、法	長谷川宗一	廣島					



東、工	池田耐一	岡山	東、工	吉田俊之助	大阪	東、工	三川一	廣島
京、工	岸本千代吉	岡山	東、工	加藤仲二	愛知	東、工	梅田雄三	大阪
京、工	市岡萬二郎	大阪	京、工	小山柳一	長野	東、工	石川福三	廣島
京、工	深見俊三	愛知	東、工	廣瀨秀吉	廣島	東、工	石倉新十郎	群馬
京、工	森野正之	愛媛	東、工	廣瀨谷澄	長野	京、工	東馬三郎	岡山
京、工	小林義一	岡山	京、工	近藤藤	岐阜	東、工	堀岡利一	廣島
東、工	渡邊貫三	神奈川	東、工	荒池忠吉	京都	京、工	保澤定五郎	岡山
東、工	和田信夫	靜岡	東、工	佐武正一	東京	京、工	長野新十郎	岡山
京、工	手島潮大	分	×田中安三	佐賀	東、工	原仲太郎	福岡	
京、工	伊藤清四郎	島根						
東、農	堀口由巳	岐阜	東、農	鈴木英亮	茨城			
東、農	宇都宮清綱	廣島	東、農	芝池真吉	大阪			
東、理	大谷小助	山口	東、農	三田谷五郎	廣島	東、農	田中作次郎	京都

二部甲

(二十八名)

二部乙

(二十二名)

東、林	原三六	東京	東、獸醫	名倉	廣島	東、工	菅田享介	兵庫
東、林	小林準一郎	群馬	東、農	西貞	東京	東、農	小出義男	長野
東、藥	水谷友三	新潟	東、獸醫	横屋	岡山	東、獸醫	青山	廣島
東、獸醫	關田莊一	福岡	東、獸醫	山田勝一	岡山	東、文	橋本寛三	東京
東、藥	上野周	廣島						
東、博	佐藤邦雄	廣島	東、醫	倉本猪三男	香川	東、醫	山田靜榮	香川
東、醫	野田孫一	千葉	東、醫	牧野大融	岡山	東、醫	杉山元之助	長野
東、醫	大和田撰太郎	茨城	九、醫	小野山忠夫	福岡	京、醫	横田甫	兵庫
東、醫	佐藤敏二	岡山	京、醫	揚藤原守業	新潟	京、醫	飯田格	福岡
京、醫	瀬川深	慶手	京、醫	仁科啓三	岡山	京、醫	三浦上孫一	岡山
東、醫	山口靜雄	愛知	東、醫	郡司修	茨城	東、醫	中川清	東京
京、醫	菅忠芳	岡山	東、醫	佐谷有吉	京都	京、醫	小川門一	岐阜
京、醫	中山佐代治	愛知	大、	辻野二郎	和歌山	東、醫	藤井	兵庫
東、醫	千田要治	兵庫	九、醫	戸田滋次郎	岡山	東、醫	藤森雄平	岡山

三部

(二十四名)



東、醫 腹巻(舊勳六) 勝見 佐賀 九、醫 井上 庸三 千葉 九、醫 中原 精三 兵庫  
 九、醫 比留間 茂十郎 東京 九、醫 志村 太賀志 山梨 九、醫 笠原 精一 埼玉  
 ×枝 松邦 藏 廣島

○第六回卒業生

(明治四十一年六月二十七日卒業) 計百五十三名

一部 甲

(三十五名)

東、法 赤木 朝治 岡山 東、法 藤田 大夏 兵庫 東、法 宮内 聰太郎 千葉  
 東、法 天宅 敬次 耶兵衛 東、法 森 逸二 愛知 東、法 大賀 幾太郎 山口  
 東、法 榎本 正善 鳥取 東、法 ×關 義 照石 川 東、法 中島 彌次 高知  
 東、文 岩崎 孫八 岡山 東、法 齋藤 教慧 島根 東、法 佐伯 頼治 島根  
 東、法 西村 廉 岡山 東、文 ×三好 安太郎 岡山 東、法 坂間 棟次 神奈川  
 東、法 岡田 壽吉 兵庫 東、法 榎戸 泰介 大阪 東、文 谷田 民夫 岡山  
 東、文 大久保 保七郎 新潟 東、法 三宅 富治 岡山 東、法 下村 重美 鹿兒島  
 東、法 渡邊 競 岡山 東、法 吉澤 尙島 取 東、法 榑葉 龜太郎 靜岡  
 東、文 澄田 福松 山口 東、法 島田 茂 岡山 東、法 藤井 喜一 廣島

一部 丙

(三十七名)

東、法 飯島 誠一 茨城 東、法 ×田 波庄 藏 栃木 東、法 山本 宗治 兵庫  
 東、文 藤田 福太郎 愛媛 東、法 光畑 甚吉 岡山 東、法 大西 岸惠 愛媛  
 東、法 三好 楠次郎 愛媛 東、法 ×山崎 二郎 廣島 東、法 八田 照 東京  
 東、法 ×池田 敬勝 廣島 東、法 一條 久宮 城 東、法 三村 和義 奈良  
 東、法 入江 魁 茨城 東、法 山中 恒三 山口 東、法 八田 照 東京  
 東、法 中谷 貞頼 高知 東、法 大橋 鐵吉 岡山 東、法 笈干 城夫 岡山  
 東、法 有吉 實京 都 東、法 伊東 禿 愛知 東、文 黒田 幹一 岡山  
 東、法 久留島 新司 廣島 東、法 山田 信一 香川 東、法 佐藤 麟 岡山  
 東、文 佐藤 直丸 山形 東、法 村山 惣平 埼玉 東、法 田村 與一 長野  
 東、文 鷺尾 祖鳳 愛知 東、法 成瀬 彬 京都 東、法 高天房五郎 奈良  
 東、法 森 小八郎 香川 東、法 倉田 庄太郎 香川 東、法 濱家 熊雄 兵庫  
 東、法 杉村 茂 東京 東、法 寺本 喜三 次 福井 東、法 山田 孝次郎 熊本  
 東、法 松岡 義彦 愛知 東、法 山本 景藏 東京 東、法 進藤 林造 廣島  
 東、法 大政 朝光 愛媛 東、法 菊池 武男 茨城 東、法 海野 普吉 靜岡



東、法	柳沼保藏	福岡	東、法	瀧井文郷	福岡	東、法	土田保藏	三重
東、法	久保田盛市	群馬	東、工	片岡敬正	東京	東、工	氏家竹之進	東京
東、工	×小杉俊雄	東京	東、工	波邊研六	岡山	東、工	菱川宏	東京
東、工	服部正人	山口	東、工	竹波喜久次	岡山	東、工	厚木勝基	東京
東、工	富坂清	東京	東、工	堀越清六	岡山	東、工	横田千秋	兵庫
東、工	野口倫八	佐賀	東、工	太田宏一	愛知	東、工	信原濟夫	岡山
東、工	長野文一	群馬	東、工	桃村真一郎	新潟	東、工	小柳助治	佐賀
東、工	佐藤維吉	愛知	東、工	門田傳三	愛媛	東、工	×桐榮寛三	香川
東、工	高木毅	静岡	東、工	佐々木澄夫	岡山	東、工	高田豊	廣島
東、工	長江了一	岡山	東、工	×若森久幹	埼玉	東、工	若林求己	廣島
東、法	柴原龍兒	兵庫	東、工	森勝吉	東京	東、工	海福紀一	福井
東、工	櫻井五郎	山形	東、工	×恩支那(聽)				
東、工	劉慶							

二部甲

(三十一名)

二部乙

(十八名)

東、工	×瀧波正勝	岡山	東、農	×安井信清	香川	東、農	市川節治	秋田
東、獸醫	鈴木一	愛知	東、理	岩村新兵	兵庫	東、農	中本保三	山口
東、工	關谷正慶	岐阜	東、農	渡邊壽愛	知	東、工	福田惣次	兵庫
東、工	堀江勝巳	東京	東、農	伊藤一次	岐阜	東、獸醫	小出義彦	岡山
東、農	竹井毅	東京	東、林	久保時男	東京	東、林	一番々瀧鎮造	佐賀
東、農	田中八郎	京都	東、獸醫	柴内保次	岩手	東、林	西尾貞治	大阪
東、醫	田邊文四郎	鳥取	(三十二名)			東、醫	溝淵忠雄	高知
東、醫	高木小三郎	京都	東、醫	藤井貞廣	島	東、醫	石川省三	廣島
東、醫	草野強治	島根	東、醫	玉井壽千代	和歌山	東、醫	石川省三	廣島
東、醫	山本順市	廣島	東、醫	×三宅達衛	岡山	東、醫	多田羅正俊	香川
東、醫	入谷銜愛	知	東、醫	木積一太	大阪	東、醫	齋藤千城	鳥取
東、醫	佐々木龜鑿	廣島	東、醫	東原良太	岡山	東、醫	根本豊治	茨城
東、醫	高橋誠一	島根	東、醫	岩男督大	分	東、醫	中村秀雄	千葉
東、醫	高橋誠一	島根	東、醫	千住作市	佐賀	東、醫	山田恒富	愛知
東、醫	白井義治	埼玉	東、醫	結方祐將	鳥取	東、醫	入野信敏	愛知

三部

(三十二名)



東、醫 久野義 廣愛知 九、醫 山本弘行 岩手 京、醫 新林可兒雄 廣島  
 九、醫 勳柄直也 千葉 九、醫 掛下玉男 佐賀 九、醫 星野和正 群馬  
 九、醫 中水信仔 和歌山 京、醫 澤田基次 廣島

○第七回卒業生

(明治四十二年六月二十九日卒業)

計百三十二名

一部甲 (二十一名)  
 東、法 × 兒島多賀太 岡山 東、法 高井清一 山口  
 東、法 能勢淡二 滋賀 東、法 鈴木貫靜 岡  
 東、法 菊池有茨城 東、法 神輿常泰 京都  
 東、法 津田猛哉 東京 東、法 宮崎勝雄 廣島  
 東、法 西村曉愛 媛 東、法 芝樂地亮次郎 京都  
 東、法 石井資三 廣島 東、法 × 太田顯藏 岡山  
 東、文 高橋謙 東京 京、文 × 須川節造 京都  
 東、工 × 藤野 一 部 丙 (三十一名)  
 東、法 大村哲太郎 山口 東、法 × 伊藤信男 長野  
 東、法 石塚綱正 秋田 東、法 三吉悅雄 山口  
 京、文 秋山光夫 京都 東、法 増山敏柄 水  
 東、法 窪田幹太 岡山 東、法 千葉讓祐 岩手  
 東、法 大野清五郎 岡山 東、法 大塚升六 静岡  
 京、法 × 櫻 (舊影山) 昌岡山 東、法 山田秀一 愛知  
 東、法 伊藤竹次郎 滋賀 東、法 金子榮一 茨城  
 東、法 豐住周五郎 東京 東、法 横山昌輔 山形  
 東、法 樋口佐平 廣島 東、法 立川基義 大分  
 東、文 大本琢壽 岡山 東、文 達藤順一 東京  
 東北法文 橫山采米 群馬

一部甲 (二十六名)  
 東、工 長崎俊雄 岡山 東、工 池田亮次 廣島  
 東、工 原田三左衛門 岡山 京、工 高木舜一 岡山  
 京、工 山根幸人 鳥取 東、工 大橋退治 岡山  
 東、工 × 田坂正樹 廣島  
 東、法 大村哲太郎 山口 東、法 × 伊藤信男 長野  
 東、法 石塚綱正 秋田 東、法 三吉悅雄 山口  
 京、文 秋山光夫 京都 東、法 増山敏柄 水  
 東、法 窪田幹太 岡山 東、法 千葉讓祐 岩手  
 東、法 大野清五郎 岡山 東、法 大塚升六 静岡  
 京、法 × 櫻 (舊影山) 昌岡山 東、法 山田秀一 愛知  
 東、法 伊藤竹次郎 滋賀 東、法 金子榮一 茨城  
 東、法 豐住周五郎 東京 東、法 横山昌輔 山形  
 東、法 樋口佐平 廣島 東、法 立川基義 大分  
 東、文 大本琢壽 岡山 東、文 達藤順一 東京  
 東北法文 橫山采米 群馬



東、工	寺田 勇一	東京	東、工	岩藤 二郎	岡山	京、工	小田島 修三	岩手
東、工	栗谷 鶴二	廣島	東、工	前田 雅二	兵庫	東、工	坂本 登	岡山
東、工	楠田 謙三	奈良	岡、醫	小林 章二	廣島	東、工	小坂 五九三	岡山
京、工	妹尾 吉次	岡山	東、工	大野 健明	愛知	京、工	武信 利治	鳥取
京、工	浦川 敏介	鳥取	東、工	中村 研五	東京	東、工	許 徽	支那
東、工	洪彦 亮	支那	東、工	傳 爾	頌支那			
二部 乙 (二十一名)								
東、農	淺井 實	愛知	東、獸醫	佐々田 伴久	大阪	東、農	小橋 清久	東京
東、水産	宮田 彌次郎	東京	東、農	佐藤 達也	沖繩	東、理	江見 節男	岡山
東、林	澤田 修三	兵庫	東、農法	長谷川 敬事	東京	東、農	塚田 秀男	東京
東、林	杉浦 眞鉄	東京	東、藥	小柳 泰三	東京	東、林	日戸 政章	長野
東、獸醫	大西 李彰	香川	東、林	武安 雙二	山口	東、獸醫	佐藤 繁雄	福島
東、農	山崎 一耶	茨城	東、理	今井 一郎	山形	東、藥	黄葉 深造	山口
東、藥	關根 重治	東京	東、農	谷垣 宰次郎	兵庫	京、理	范 銳	支那
三部 (三十三名)								

東、醫	坂本 恒雄	廣島	東、醫	永井 一夫	徳島	東、醫博	西川 義英	和歌山
東、醫博	小金井 良一	東京	東、醫	三角 康正	東京	東、醫	縣 清一	静岡
東、醫	立花 押尾	静岡	京、醫	鈴木 信義	愛知	東、醫博	飯田 博	島根
東、醫	谷口 映二	新潟	東、醫博	穂坂 與明	東京	東、醫	高松 榮三	兵庫
東、醫博	藤繩 喜代藏	鳥取	京、醫	岡 信一	岡山	京、醫	渡邊 範介	福岡
京、醫	山本 英顯	香川	九、醫	内田 文秀	茨城	京、醫	井野 勇	静岡
京、醫	皆木 泰一	岡山	九、醫	松浦 光清	宮城	京、醫	高石 信一	大阪
九、醫	森 永弘	廣島	×武	田 貞敏	岡山	京、醫	×多田 昇太郎	岡山
京、醫	小林 連	廣島	九、醫	篠川 賢治	富山	京、醫	岡田 清藏	新潟
九、醫	梶 貞三	香川	九、醫	岡田 章人	高知	九、醫	市川 鴻一	山形
九、醫	原田 吉次	鹿兒島	九、醫	古澤 莊之助	山形	九、醫	遠山 理三	兵庫
○第八回卒業生 (明治四十三年七月一日卒業 内二名九月二十八日卒業) 計百五十六名								
一部 甲 (二十四名)								
東、法	山谷 省吾	岡山	東、法	宗像 久敬	東京	東、文	田坂 龍雄	東京



東法丸山正雄長野	東法賀屋俊雄山口	東法前田薰一兵庫
東法高橋仰之廣島	東法池田卓一香川	東法渡邊利二郎神奈川
東法小出芳太郎熊本	東法齋藤貢岡山	東法高安禮三茨城
東法高島肇岡山	東法岩城茂靜岡	東法水野傳岡山
東法田井延次郎高知	東法守山薰廣島	東法大塚俊雄福井
東法(舊山路)松田利夫廣島	東法太田貢岡山	東法山田敬太郎東京
東法宮澤裕廣島	東法川村昌信兵庫	東法石川佐久太郎靜岡
一部乙 (十六名)		
東文 中川 荒岡山	京法 大森研造香川	東文 近成多一岡山
東文 緒方健三郎福岡	京法 遠山 翁岐阜	東文 水野 毅神奈川
京法 石黒義郎岡山	東文 藤田逸男岡山	東文 石川文雄岩手
京法 松本官平香川	×安田 實山口	京法 等力了石川
東文 坂本 稔岡山	東文 篠田海洲岐阜	京法 岡田性一廣島
東文 齋藤 茂東京		
一部丙 (二十八名)		

東法 中島 重岡山	東法 竹井 廉三重	東法 根矢庄次郎大阪
東法 河田隆治香川	東法 中西保則奈良	東法 土居時良廣島
東法 春名喜四郎岡山	東法 三津川好照滋賀	東法 早川三郎神奈川
東法 松本 蕪靜岡	東法 市村英治和歌山	東法 渡邊里樹廣島
東法 山口榮治那奈瓦	東法 日野鴻藏廣島	東法 田島義士山口
東法 (舊柳澤) 若尾英一郎埼玉	東文 内田榮造岡山	東法 間原長次那茨城
東法 谷 充國三重	京法 横田歌次香川	東法 倉西太郎東京
東法 市川爲吉茨城	東法 明石九一廣島	東法 山田萬七宮城
東文 吉田仁作千葉	澤田正夫東京	東北 選王 大 鶴支那(聽)
東北 選揚 崑支那(聽)		
二部甲 (三十四名)		
×上野 秀吉香川	東工 桑原利英山口	東工 横井増治大阪
×平井次郎吉香川	東工 齋藤孝二那福岡	京工 錢高作太郎大阪
東工 岡田進三那兵庫	東工 島田貫一東京	東工 米村貞雄山口
東工 淺間逸男山形	京工 杉 宜算愛媛	東工 國宗 晋岡山



東工	唯井英隆	靜岡	東工	林	密愛知	東工	磯邊助一	山口
東工	横山虎雄	埼玉	京工	安藤昌三	香川	京工	宮川清廣	島
東工	藤井厚二	廣島	京工	兒島豊作	岡山	東工	遠藤祐三	岡山
京工	小野道三	神奈川	東工	江本貴一郎	岡山	京工	橋平悌三	新潟
京工	野村淨廣	島	東工	吉葉泰三	茨城	京工	新野一良	愛媛
東工	鈴木恒太郎	靜岡	京工	大川元次	靜岡	京工	中根伸介	廣島
東工	徳永泰人	兵庫	東工	久保田清	東京	京工	岩尾行藏	廣島
東工	池木隆	岡山	東工	久保田清	東京	京工	岩尾行藏	廣島
東農	中島巖	石川	東水産	國枝海	靜岡	東農	五十嵐清治	千葉
東農	金子義雄	愛知	東林	片山茂樹	岡山	東水産	伊東孝一	東京
東農	高木丑平	靜岡	東農	飯田三郎	福島	東農	石塚峻	茨城
東林	繁澤利往	山口	東理	大石太七	愛知	東林	西田紀元	山口
東林	松村巖	東京	東藥	田邊祿壽	東京	東水産	岡村治人	東京
東理博	石原寅次	岡山	東藥	田邊祿壽	東京	東藥	篠崎憲一	東京

二部 乙

(二十四名)

東水産	西原八十八	岡山	東林	眞崎清治	佐賀	東獸醫	伊阪豊吉	兵庫
東	×園部一夫	岡山	東理	佐藤林三	長崎	東理	郭鴻	斐支那(聽)
京醫	前田利實	兵庫	東醫	清水能澄	香川	京醫	大森城彦	岡山
京醫	舟岡省吾	香川	東醫	惠木卓吉	廣島	東醫	渡邊義雄	廣島
東醫	北條源之助	徳島	東醫	渡邊重治	愛知	東醫	村上功廣	島
東醫	谷野數之	岡山	東醫	×太田寧	東京	京醫	土肥順造	廣島
京醫	板谷孫市	岡山	東醫	近藤喜一	岡山	京醫	龜谷貞訓	奈良
京醫	藤岡明香	川	東醫	古谷義佐	山口	東醫	小林益三	靜岡
東醫	岡田増右衛門	愛知	東醫	奥田喜久三	東京	東醫	松尾廣次	兵庫
九醫	岡本久人	廣島	九醫	前田利道	山口	九醫	長崎	野
九醫	窪田孝福	井	九醫	新井純一	山口	九醫	錦見慶介	岐阜
九醫	安田祐吉	東京	九醫	湯淺信男	徳島	九醫	×金台	鎮朝鮮(聽)

(三十名)



○第九回卒業生

(明治四十四年七月一日卒業)

計百三十三名

一部甲

(二十四名)

東、法	土方成美	兵庫	太刀掛陣一廣島	東、法	入江堯二	岡山
東、法	長安陸五	岡山	岡野清豪	京、法	宮本英雄	岡山
東、法	吉岡堅太郎	岡山	和田孫吉	京、法	宮本英雄	岡山
東、法	八十川正義	香川	石津稟三	東、法	張	岡山
東、法	關健三	奈良	石津稟三	東、法	大原五一	岡山
東、法	堀濱寅一	兵庫	石黒輝磨	東、法	吉田賢男	島根
東、法	岩田玉之助	和歌山	守分十	東、法	三木通三	愛媛
東、法	大石廣足	島根	和氣鶴太郎	東、法	久松來介	東京
東、文	石井直三	岡山	後藤多賀雄	東、文	筒井信治	東京
東、文	千輪清海	岡山	渡邊彦士	東、文	松田真四郎	岡山
京、法	市岡乙熊	岐阜	高橋太愚	京、法	清水俊榮	新潟
			愛媛	京、法	矢追進	奈良

一部乙

(十四名)

一部丙

(十五名)

東、文	伊東六郎	東京	東、文	磯部康吉	愛知	東、文	御厨準四郎	佐賀
東、法	島末如水	廣島	東、法	上遠野長重	福島	東、法	堀田三郎	京都
京、法	富海教全	岡山	東、法	古川純一郎	福井	東、法	樋山真廣	奈良
東、法	山本守一	香川	東、法	中治武二	兵庫	東、法	石原繁一	廣島
東、法	安原舜一	岡山	東、法	保科彰島	根	東、法	宮武友政	香川
東、法	松岡峻三	靜岡	東、法	吉原一夫	廣島	東、法	八塚英一	和歌山
東、文	伊藤達夫	愛媛	東、法	木村幾太	香川			
東、工	×上岡行藏	岡山	東、工	柳澤芳次	岡山	東、工	×栗栖久太郎	廣島
東、工	×西田哲二	島根	京、工	片岡盛一	廣島	九、工	阿曾沼均	和歌山
九、工	三田真二	兵庫	東、工	吉田謹平	香川	東、工	黒田修三	東京
東、工	岡敬藏	大阪	東、工	山本通廣	島	東、工	齋藤虎男	茨城
九、工	×高橋澤衛	岐阜	東、工	渡邊寅次	山梨	九、工	蒲生明	香川
九、工	山崎寛二	奈良	東、工	田中胖	沖繩	東、工	野津勝造	東京



東工	竹村俊一	愛知	東工	植木茂	廣島	東工	竹井俊郎	岡山	
東工	寛正	幸大阪	京工	伊藤榮	長野	東工	小田賢郎	愛媛	
京工	文永	言支那(聽)	京工	黄家	驥清(聽)		吳永	瑞支那(聽)	
東農	趙鍾	觀朝鮮(聽)							
二部乙 (十三名)									
東藥	石原繁行	廣島	東藥	林彪	太郎	岡山	東農	藤原高	岡山
	×三好	瓦種	香川	東理	坂本秀一	神奈川	東藥	尾崎登	珍香川
東農	三輪昌一	東京	東林	大島卓爾	埼玉	東藥	鈴木三郎	神奈川	
東農	世良正一	廣島	東林	三戸卓助	山口	東獸醫	安達誠太郎	三重	
東藥	横田敬三	埼玉							
三部 (三十九名)									
東醫	鈴木朝輝	廣島	東醫	山上熊三	三重	東醫	淺野正吉	岡山	
東醫博	首藤守彦	大分							
東醫	原田謙太郎	鳥取	東醫	志賀亮	東京	東醫	淺田弘太	香川	
東醫	石田稻男	岡山	東醫	望月朔耶	靜岡	京醫	×中村才治	山口	
						京醫	松島茂	鳥取	

京醫	坂東隆雄	德島	東醫	×八十島	基石川	東醫	松本文作	靜岡
京醫	谷泉信吉	香川	東醫	桐原真一	東京	京醫	石上一介	京都
京醫	黒田一耶	茨城	京醫博	岡田正	岡山	京醫	青木九一	東京
東醫	池原民次	奈良	京醫	藤原敬三	岡山	京醫	清水盛政	東京
京醫	宇野俊夫	靜岡	九醫	住友治實	島	九醫	北村末造	長野
京醫	武田六郎	鳥取	九醫	田阪仁憲	廣島	京醫	品川實	山口
九醫	早川正	岡山	京醫	白鳥文雄	長野	京醫	×住田正昭	兵庫
京醫	×石田林三	岡山	京醫	市川佐與吉	廣島	九醫	本多義策	山口
九醫	佐藤大亭	東京	九醫	山口彦四郎	佐賀		×中治文一	兵庫
○第十回卒業生 (明治四十五年七月五日卒業) 計百五十五名								
一部甲 (二十九名)								
東法	池田乾治	岡山	東法	平賀義典	岡山	東法	河村二四郎	佐賀
東法	岡崎和美	岡山	東法	宮崎逸平	東京	東法	森長	整東京



東、法	小西	憲三	兵庫	東、法	岡田	保太	岡山	東、法	田中	一正	香川
東、法	澤田	巖	栃木	東、法	伊原	木彌	平岡山	東、法	今泉	佐八	佐賀
東、法	江川	武	岡山	東、法	上田	四七	二岡山	東、法	落合	完二	岡山
東、法	水上	不二	夫東京	東、法	黒住	正夫	岡山	東、法	田邊	綾夫	岡山
京、法	利岡	喜久	太郎高知	東、法	河相	惇一	郎廣島	東、法	須々	木繁	太岡山
東、法	吉田	侃一	岡山	東、法	安田	幸一	岡山	京、法	源	豊雄	石川
東、文	吉村	信太郎	大阪	東、法	金子	徹	東京	京、法	定兼	料平	岡山
東、法	原	鴻太郎	山口	京、法	高橋	榮雄	高知	東、文	石本	音彦	長崎
東、文	四原	喜作	廣島	京、文	樋月	聖憲	愛媛	東、文	松岡	慎一	郎和歌山
京、文	内田	律爾	岡山	東、文	根來	泰信	和歌山	東、法	黒住	隆雄	岡山
京、法	山田	義人	岡山	東、文	吉田	照呼	愛知	京、法	草間	時光	東京
東、文	武智	啓次	郎愛媛	京、法	辻	佐五	郎三重	京、法	佐藤	綴藏	靜岡
京、法	小泉	卓藏	奈良	京、法	近藤	國夫	愛媛	東、文	小西	俊平	兵庫
東、文	伊藤	越	廣島	京、法	馬場	讓	北海道				

東、文	梶原	峰治	岡山	京、法	安樂	信夫	鹿兒島	京、法	成見	延龜	宮崎
東、法	神戶	三郎	兵庫	東、法	三村	立人	岡山	東、法	平井	出貞	三山梨
東、法	太田	收	岡山	東、法	佐上	章一	廣島	東、法	松本	茂	香川
東、法	松本	康	廣島	東、法	石川	正義	山口	京、法	對島	桑太郎	青森
東、法	松本	三郎	靜岡	京、法	浦上	徹	岡山	東、法	柳田	太郎	兵庫
東、法	宮地	憲三	廣島	東、法	佐藤	五郎	岩手	京、法	山田	榮一	山口
東、法	林田	菊治	長崎	京、法	繩田	國太郎	鳥取	京、法	兒玉	久	鹿兒島
東、法	佐藤	國一	郎三重	東、法	柴野	廣	廣島	京、法	淺賀	信三	郎東京
東、法	森	昇之	岡山	東、法	花房	職允	岡山	東、法	滋賀	房次	滋賀
京、法	松尾	定次	佐賀	東、法	星島	二郎	岡山	京、法	林	讓治	高知
京、法	中崎	憲	茨城								
東、工	角	隆	岡山	東、工	中野	真吾	香川	東、工	福見	貞治	鳥取
東、工	伊藤	毅	廣島	東、工	飯田	憲	鳥根	東、工	守屋	信一	岡山



東、工	河野	清一	廣島	東、工	河西	恒太	岡山	京、工	圓山	準吉	岡山	
九、工	太田	稔	岡山	東、工	渡邊	甲	岡山	東、工	三輪	幸左衛門	愛知	
京、工	三宅	廉太郎	岡山	東、工	金原	柔次	廣島	東、工	戸田	薰一	岡山	
京、工	芝	喜代二	廣島	京、工	小原	知時	大阪	東、工	三田	村貞雄	廣島	
東、工	高木	顯達	岐阜									
二部乙 (十八名)												
東、農	中村	幸二	東京	東、林	博田	剛	岡山	東、藥	三宅	馨	岡山	
東、農	大關	竹三	東京	東、林	中島	卯三	埼玉	東、農	水河	卓爾	岡山	
東、法	水産	小杉	銚造	東京	東、林	福永	鴻介	山口	東、藥	高田	龜太郎	京都
東、林	野間	隆一	愛媛	東、北	林山	崎義政	愛媛	東、農	横田	小人大	廣島	
東、農	×大久保	元次	徳島	東、林	矢野	義治	愛媛	京、農	玉井	則衛	愛媛	
東、農	田部	華吉	廣島	東、藥	吉岡	寅吉	徳島	東、藥	高橋	省造	山形	
京、工	山岸	貞一	東京									
三部 (三十九名)												
東、醫	田中	堅輔	岡山	東、醫	森谷	豐	岡山	東、醫	國廣	寛一	廣島	

東、醫	春木	秀次	那島	根	東、醫	高橋	謙	東京	京、醫	博吉	村真一	岡山
東、醫	×宮下	保雅	神奈川	東、醫	石川	正臣	山口	東、醫	進藤	憲	廣島	
東、醫	博小山	武夫	岡山	京、醫	尾形	弘	石川	京、醫	後藤	元彦	廣島	
京、醫	松原	良一	香川	京、醫	井上	金輔	岡山	京、醫	藤井	新	廣島	
東、醫	岸	金城	岡山	東、醫	香川	三之助	廣島	京、醫	花野	敏雄	岡山	
京、醫	尾城	誠	東京	京、醫	池田	章	鹿兒島	京、醫	村上	豐愛	媛	
東、醫	吉川	英作	埼玉	京、醫	林國	久	廣島	東、醫	淺見	丈二	那島	玉
東、醫	×金谷	材吉	岡山	京、醫	三浦	寛二	廣島	京、醫	阪井	毅	兵庫	
九、醫	須磨	習之	廣島	九、醫	掃澤	又三	那島	九、醫	今井	了五	那島	香川
九、醫	福島	林平	徳島	九、醫	浦山	清	愛知	九、醫	神崎	豊司	奈神川	
九、醫	武山	定雄	岐阜	九、醫	上村	親一	那島	九、醫	三木	利一	兵庫	
九、醫	土屋	幸夫	那島	九、醫	山田	環	岡山	九、醫	陸山	大	愛媛	
○第十一回卒業生 (大正二年七月一日卒業) 計百三十九名												
一部甲 (二十五名)												